

平成 27 年度の山部会の活動進捗報告

1. 山部会の目標とテーマ

山部会の 3 ヶ年（平成 25～27 年度）の活動テーマを以下に示す。

（3 ヶ年の目標）

- WGの中で山村再生担い手づくり事例集の作成を行い、作成を通じて得られた人のつながりを活かした山村再生に向けた活動を山部会構成メンバーが行っていく
- WGの中で森づくりガイドラインの策定とモデル林によるモニタリングの試行的実施を行う
- WGの中で、木づかいガイドラインの策定を行い、ガイドラインを活用した木づかいの取組みを山部会構成メンバーで実行

<テーマ>

<解決手法>

山村再生担い手づくり事例集	森林の適切な管理は山村再生が重要。まずは人づくりに取り組む。
山村ミーティング	山村再生を支援する取組みへの参加・情報共有を行う。
森づくりガイドライン	流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインを作る。
木づかいガイドライン	矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。

2. 今年度の活動実績

活動内容	日時	場所
第 24 回WG （豊田）17 名参加	5 月 15 日（金）～ 16 日（土） 13:30-17:00	・豊田市森林組合新庁舎 第 2 第 3 会議室
第 25 回WG （根羽）13 名参加	6 月 11 日（木） 13:30-16:30	・根羽村老人福祉施設しゃくなげホール
第 26 回WG （恵那）13 名参加	7 月 24 日（金）～ 25 日（土） 13:00-16:00	・奥矢作レクリエーションセンター（大会議室）
第 27 回WG （岡崎）16 名参加	8 月 21 日（金） 14:00-17:30	・岡崎市ぬかた会館（2階2～3会議室）
第 28 回山海合同WG （東幡豆）28 名参加	9 月 25 日（金）～ 26 日（土）13:00-	・東幡豆漁業組合（会議室）
第 29 回WG （岡崎）28 名参加	10 月 16 日（金）～ 17 日（土）14:00-	・岡崎市ぬかた会館（2階2～3会議室）ほか
第 30 回WG （恵那）19 名参加	11 月 27 日（金） 14:00-17:10	・上矢作林業センター（大会議室）
第 31 回WG （豊田）18 名参加	12 月 21 日（金） 13:00-16:00	・豊田市職員会館 2F 第 1 会議室

※参加人数は事務局含む

(余 白)

3. 各テーマの活動進捗

テーマ	内容	活動日程・概要	進捗
山村再生担い手づくり事例集	森林の適切な管理は山村の再生が重要。そのため、先ずは人づくりに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 第 24 回 WG ⇒過年度の成果と今年度の予定 第 25 回 WG～第 27 回 WG ⇒流域マップの作成確認と取材先の検討 第 28 回 WG ⇒取材先の決定共有・取材者の募集 第 29 回 WG ⇒取材先と取材者の決定共有 第 30 回 WG～第 31 回 WG ⇒進捗報告 	<ul style="list-style-type: none"> 取材先として、山・海の生業だけでなく、文化的な担い手（例 日近太鼓等）も対象に広げた。 過年度に続き山・川・海の部会員が連携し、取材や執筆活動を行った。 今年度は平成 25 年度、平成 26 年度に続く山村再生担い手づくり事例集(vol.3)を成果とする。 取材先（3ヶ年分）の活動拠点について、山村再生担い手づくり事例集マップ（仮）として、活動拠点を地図上に示した。 大学の講義（体験実習）に山村再生担い手づくり事例集が活用されたこと等、成果の活用事例が報告された。
山村ミーティング	山村再生を支援する取り組みへの参加・情報共有を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 第 24 回 WG ⇒イベントの対象について確認 第 25 回 WG～第 31 回 WG ⇒山川海の流域フェスティバルの目的、素人山主とプロの誘い方等課題を共有 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道中川町のきこり祭り等、目標とするイベントの事例が紹介された。 きこり祭り（林業従事者やボランティア）を対象を絞るのは、矢作川流域圏の規模が大きいことや関係者間の価値観の違い等から、難しいことが話し合われた。 山・川・海の WG を越えた流域のイベントを行ってはどうかという意見が出された。 新たなイベントの具体的な開催時期や開催内容は、今後の WG で検討する予定である。
森づくりガイドライン	流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインを作る。	<ul style="list-style-type: none"> 第 24 回 WG ⇒豊田市の森づくりの事例 第 25 回 WG～26 回 WG ⇒流域の森づくりに関する事例収集、近自然森づくりの情報共有 第 27 回 WG～第 28 回 WG ⇒岡崎市・流域の森づくりの事例 第 29 回 WG～31 回 WG ⇒流域の間伐面積と森づくりに関する事例紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 豊田市における森づくりに関する新規事業を市の担当者より報告され、意見交換を行った。 岡崎市における水循環推進協議会「緑のダム部会」の先進事例が周知され、意見交換を行った。 矢作川流域圏の森づくりや間伐の実績について、情報収集と意見交換を行った。 額田木の駅の稼働状況について情報共有を行った。 矢作川流域の特徴的な森林および巨木・並木について、WG で選定をおこなっている。 近自然森づくりについて、荒山林業を視察し、矢作川流域圏への展開を検討した。
木づかいガイドライン	矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。	<ul style="list-style-type: none"> 第 24 回 WG ⇒昨年度の成果と今年度の予定 第 25 回 WG ⇒木のある暮らしを推奨するための「動く木のおもちゃ 23 種」と「流域ものさし」の紹介と活用についての意見交換 第 26 回 WG～30 回 WG ⇒根羽村森林組合が主となって行う木づかいライブ・スギダラキャラバンにおける意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> 木づかいガイドラインは、根羽村森林組合がまとめ役となり情報収集が行われた。 木づかいライブ・スギダラキャラバンは名古屋市、安城市、豊田市等の啓発活動において、市民に好評を得たことが周知された。特に、安城市では今後、市内の公民館 11 箇所をカーボンオフセットを活用して巡回する予定である。また、豊田市で実施された「あそべるとよた DAYS」においては、プレイスメイキングの効果が実証された。 流域ものさし、どこでもシリーズについては、WG の意見を聞きながら木材の確保、製作を進めている。 小学生が自転車で源流から河口を走破した記録が報告され、流域の次の担い手（主に小学生）を対象としたイベントを検討している。

(余 白)

1.1 山村再生担い手づくり事例集

(1) 今年度の活動より分かったこと

①取材対象の拡大

- ◆今年度は、平成 25 年度、26 年度の手法（主に農村や海の担い手を対象とする）に加え天下杉、農村舞台アートプロジェクト、あすけ聞き書き隊といった文化的な担い手も対象とし、それらを含む合計 22 団体を取材した。

〈長野県〉：2 団体

- ・飯伊森林組合平谷事業所（平谷村） ・天下杉（根羽村）

〈岐阜県〉：1 団体

- ・夕立山森林塾（恵那市山岡町）

〈愛知県〉：19 団体

- ・野外保育園とよた森のようちえん 森のたまご（旧豊田市） ・農村舞台アートプロジェクト（旧豊田市）
- ・稲武山里体験推進協議会（どんぐり工房）（豊田市稲武地区） ・ファーストハンド（豊田市稲武地区）
- ・老人福祉センターぬくもりの里（豊田市旭地区） ・有間竹林愛護会（豊田市旭地区）
- ・あさひ森の健康診断（豊田市旭地区） ・あさひ薪づくり研究会（豊田市旭地区）
- ・おいでん・さんそんセンター（豊田市足助地区） ・あすけ聞き書き隊（豊田市足助地区）
- ・山里センチメンツ（豊田市足助地区） ・しもやま再来るプロジェクト（豊田市下山地区）
- ・コレカラ商店（豊田市小原地区） ・岡森フォレストーズ（岡崎市額田地区）
- ・鳥川ホテル保存会（岡崎市額田地区） ・額田木の駅プロジェクト（岡崎市額田地区）
- ・日近太鼓（岡崎市額田地区） ・蒲郡市漁場環境保全協議会（蒲郡市） ・島を美しくする会（西尾市）

- ◆文化的な団体は、それ自体が生業ではないが、地域の活性化・住民のモチベーションの向上にとって重要な役割を担っていると考えられる。



天下杉による福祉施設での慰問の様子（下伊那郡売木村）

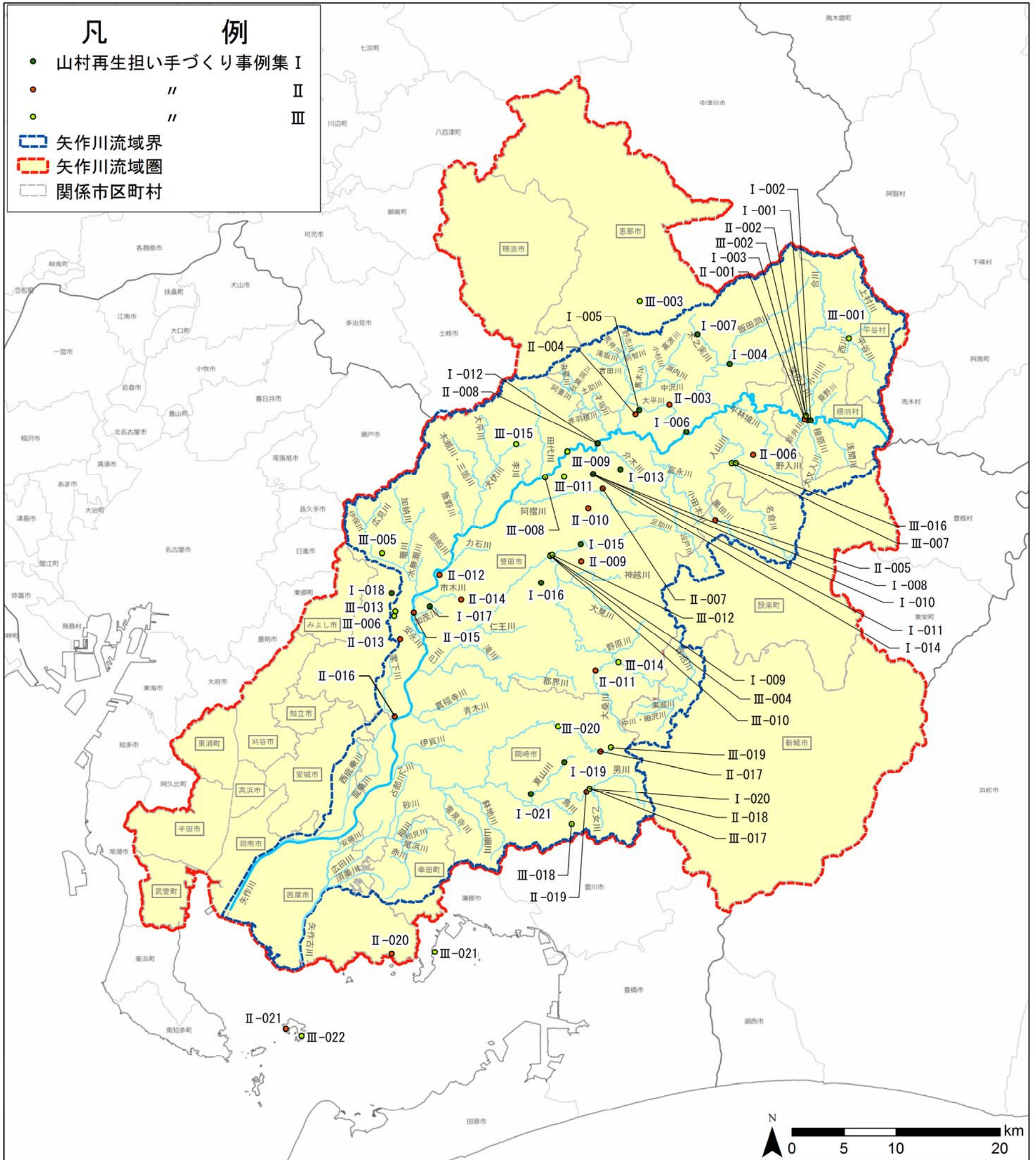


日近太鼓が主催する太鼓フェスティバルの様子（岡崎市桜形町）

②活動の成果

- ◆過去の取材者が取材先になる等、事例集に関わる人の繋がりがさらに深まった。
- ◆大学の講義（体験実習）に山村担い手づくり事例集が活用された。
- ◆3 ヶ年に及ぶ山村再生担い手づくり事例集（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）の活動拠点について、マップの作成を行った（次頁参照）。

(余 白)



長野県下伊那郡平谷村		愛知県豊田市		愛知県北設楽郡設楽町	
Ⅲ-001	飯伊森林組合平谷事務所	I-008	矢作川水系森林ボランティア協議会	Ⅱ-013	アグロ・プエルタ
	長野県下伊那郡根羽村	I-009	とよた森林学校	Ⅱ-014	とよたプレイパークの会
I-001	根羽村森林組合	I-010	とよた森林学校OB会	Ⅱ-015	NPO法人矢作川森林塾
I-002	ねば杉こ餅	I-011	とよた都市農山村交流ネットワーク	Ⅱ-016	矢作川水族館
I-003	根羽村猟友会	I-012	豊森なりわい塾	Ⅲ-004	おいでん・さんそんセンター
Ⅱ-001	木の駅ねばりん実行委員会	I-013	株式会社 M-easy	Ⅲ-005	野外保育 とよた 森のたまご
Ⅱ-002	きくの会(菊の会)	I-014	旭木の駅プロジェクト(実行委員会)	Ⅲ-006	農村舞台アートプロジェクト
Ⅲ-002	天下杉	I-015	千年持続学校	Ⅲ-007	稲武山里体験推進協議会
	岐阜県恵那市	I-016	おむすび通貨(一般社団法人物々交換局)	Ⅲ-008	老人福祉センターぬくもりの里
I-004	恵南森林組合	I-017	green maman	Ⅲ-009	有間竹林愛護会
I-005	串原農林(旧串原林業)	I-018	農業生産法人 みどりの里	Ⅲ-010	あさひ森の健康診断
I-006	NPO法人 奥矢作森林塾	Ⅱ-006	アンティマキ	Ⅲ-011	あさひ薪づくり研究会
I-007	NPO法人 福寿の里自然倶楽部	Ⅱ-007	てくてく農園	Ⅲ-012	あすけ聞き書き隊
Ⅱ-003	山のハム工房 ゴーバル	Ⅱ-008	あさひ若者会	Ⅲ-013	山里センチメンツ
Ⅱ-004	三宅林業	Ⅱ-009	あすけ里山ユースホテル	Ⅲ-014	しもやま再来るプロジェクト
Ⅲ-003	夕立山森林塾	Ⅱ-010	新盛里山耕流塾	Ⅲ-015	コレカラ商店
		Ⅱ-011	近藤しいたけ園	Ⅲ-016	ファーストハンド
		Ⅱ-012	こいけやクリエイト		
				Ⅲ-019	額田木の駅プロジェクト
				Ⅲ-020	日近太鼓
					愛知県西尾市
				Ⅱ-020	東幡豆漁業協同組合
				Ⅱ-021	佐久島Oyaoya cafeもんぺまるけ
				Ⅲ-022	島を美しくつくる会
					愛知県蒲郡市
				Ⅲ-021	蒲郡市漁場環境保全協議会

I : 山村再生担い手づくり事例集 I (2013)、II : 山村再生担い手づくり事例集 II (2014)、III : 山村再生担い手づくり事例集 III (2015)

図 山村再生担い手づくり事例集マップ(仮称)の作成状況

(余 白)

(2) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針】

2013、2014 年度に引き続き、事例集の作成を行う。川や海の活動団体も取材対象とする。3 ヶ年の取材団体を地域や活動の種類によって検索し、取材内容を閲覧することができる地図を作成し、ホームページに掲載する。

《進捗状況》

今年度は新たに 22 団体の取材先が選定された。山以外の活動団体を取材対象とすることに加え、和太鼓や慰問活動といった文化的役割をもつ団体も取材対象に加えた。現在、事例集Ⅲの印刷段階となっている。また、前頁に示したように活動拠点を示した山村再生担い手づくり事例集マップ（仮）の作成が行われた。活動団体の取材内容は、地図上の団体名からリンクを設け、自由に閲覧できるものとなっている。

(3) 今後の課題

- 山村再生担い手づくり事例集の活用や市民への普及
- 山村再生担い手づくり事例集の効果の検証

1.2 山村ミーティング

(1) 今年度の活動より分かったこと

① イベントを実施するにあたっての情報共有・検討事項

【情報共有】

- ◆北海道中川町では第2回きこり祭りが行われ、目標とされたイベントの情報共有が図られた。



図 回覧された「中川町きこり祭」のポスター

【検討事項】

- ◆イベントの計画や実施するための資金の見通しが困難である。
- ◆矢作川流域圏は対象範囲が広いことに加え、林業従事者数（団体数）が多すぎるため、募集方法や情報の集約に困難な点が多い。
- ◆林業従事者の中においても、ベテランと若者では価値観が異なることや肉体労働に体力を奪われ、イベントの計画に充てる時間がない。
- ◆林業を生業としない森林ボランティアは、主に楽しく作業をすることや汗をかくことにやり甲斐を感じる人が多いため、林業従事者との価値観共有が難しい。

② 活動の成果

- ◆情報共有により、きこり祭りではなく、これに代わる流域のイベントの模索を始めた。例えば、山村再生担い手づくり事例集に関わった人々でつくる流域（山村）文化祭の実施や山村と漁村の子どもの交換留学等、山村再生担い手づくり事例集や木づかいといった別のテーマと連携する代替案が出された。
- ◆林業従事者に対象を絞らないイベントを開催する方向で検討が進められた。
- ◆豊田足助地区のもみじ祭りを山村ミーティングに活用できないかという意見が挙がった。

(2) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針案】

根羽、恵那、豊田、額田で稼働する木の駅と連携しながら、新たに「矢作川きこり祭り（仮称）」の準備に入る。長老によるベテランの技、I ターンによる若者のパワー、森林ボランティアの心意気を思う存分発揮できる「お祭り」で、流域のきこりが集い、汗を流し、杯を酌み交わし、語り合う場をつくる。

＜進捗状況＞

(3) 今後の課題

- きこり祭りに代わるイベントの検討
- 山村担い手づくり事例集や木づかい等、他のテーマとの連携強化

1.3 森づくりガイドライン

(1) 今年度の活動より分かったこと

①情報収集と共有・意見交換

- ◆川や海に配慮した木材生産を目指すモデル林の設定に向け、情報収集を行った。
- ◆森づくりに関する事例収集のため、中部森林管理局をはじめ流域圏市町村に情報提供を依頼した。

②活動の成果

- ◆豊田市では、平成 19 年度に豊田市 100 年の森づくり構想が策定され、間伐推進プロジェクト等の 6 つの事業を行っている。今年度は、策定後 10 年の課題を受けて、新たな森づくりに関する 5 事業について紹介と意見交換が行われた。

- i) 地域材加工流通体制整備（中核製材工場の誘致）
- ii) 水源かん養機能モニタリング調査（試験林の設定）
- iii) 水道水源林間伐促進費補助金
- iv) 森づくり構想リニューアルプロジェクト（生物多様性に配慮した森づくり等）
 - ・人工林現況調査業務、優良事例調査
- v) とよた森の森林学校開校 10 周年記念イベント

- ◆岡崎市では、国の水循環基本法（平成 26 年 7 月施行）に先立って、「岡崎市水を守り育む条例」が平成 20 年 4 月に施行されている。その条例の下では水環想像プランが策定されており、その諮問機関として水循環推進協議会が設置される等、森林の水源涵養機能を評価するうえで、国の先進事例を学び、意見交換を行った。
- ◆矢作川流域圏への近自然森づくりの導入を検討するために、近自然森づくりを実践している「荒山林業」の視察を行った。



荒山林業所有林にて説明を受ける部会員



97 年生のカラマツと広葉樹の混交林

◆下表に示す流域の関係団体より間伐面積の推移および森づくりの事例の回答があった。流域市町村における間伐面積では、2010年度以降減少がみられ、2014年度には2010年度の半分程度に減少した。また、特徴的な森づくり等の事例では、長野県下伊那地方事務所、恵那市、安城市より情報提供があったが、矢作川流域圏には他にも特徴的な森林と巨木・並木があるものと推察される。そこで、WGにおいても部会員の情報提供を募ることにした。マップ上にこれらの地点を配置すると、矢作川流域圏の特徴的な巨木・並木は上流域の山間部だけでなく、安城市や西尾市の下流域にも分布することがわかった。

表 森づくりに関する事例等の提供依頼先一覧
(敬称略)

依頼先	
中部森林管理局	森林整備課長
愛知県	西三河農林水産事務所長
	豊田加茂農林水産事務所長
岐阜県	恵那農林事務所長
長野県	下伊那地方事務所長
平谷村長	小池 正充
根羽村長	大久保 憲一
恵那市長	可知 義明
豊田市長	太田 稔彦
岡崎市長	内田 康宏
西尾市長	榊原 康正
安城市長	神谷 学
幸田町長	大須賀 一誠
碧南市長	禰宜田 政信

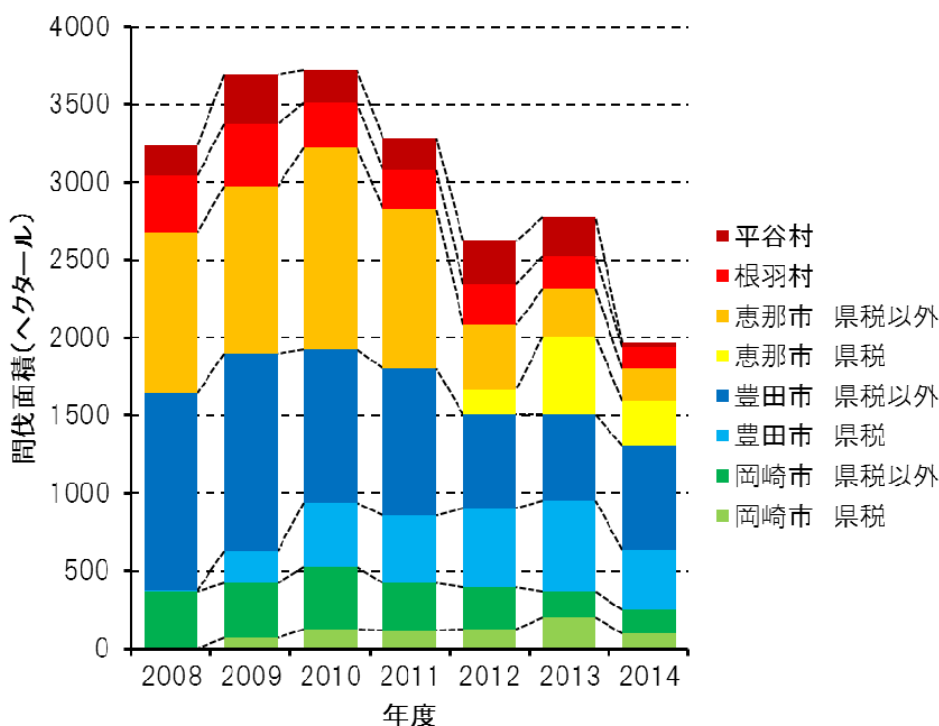


図 流域市村の間伐実績の推移

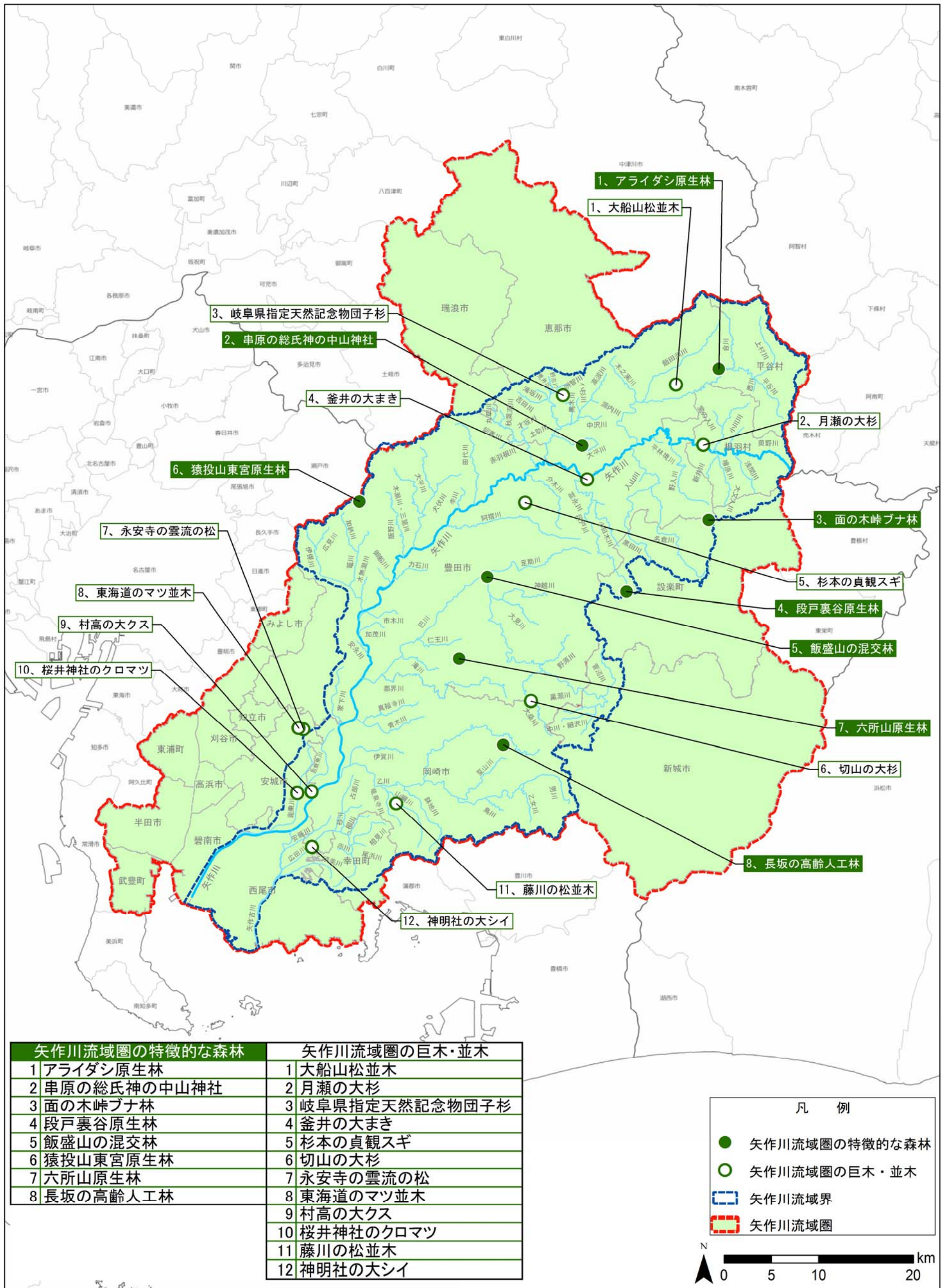


図 矢作川流域圏に特徴的な森林と巨木・並木の所在地

(余 白)

(2) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針 1】

流域圏の森の統計的情報、代表的、特徴的な森や樹木のリストを地図上に示した資料を作成し、森づくりにおける現状と課題、解決手法を川部会、海部会へ説明し、理解していただくための基礎資料とすると同時に、森林所有者、行政、森林組合、市民の情報共有のため活用していただく。

◀進捗状況▶

森づくりに関する事例等の提供依頼を中部森林管理局、流域県市町村に行い、回答を得た。代表的な森や樹木の情報については、さらにより多くの箇所を表現するため情報提供を募ることとした。現在、情報収集と地図上へのプロットがおおよそ終わった状況である。

【活動方針 2】

今後、矢作川流域圏の川や海に配慮した木材生産を目指すモデル林、スギ・ヒノキ人工林を針広混交林や広葉樹へ転換していくモデル林、森林の水源かん養機能を科学的に明らかにすることを目指した試験林等について、地域の 4 地区にそれぞれ設定していくことを検討する。

◀進捗状況▶

豊田市の森づくりに関する新規事業では、水源かん養機能モニタリング調査が含まれ、来年度初めには試験林の設定が予定されている。また、岡崎市においては、森林の水源かん養機能の発揮について再構築することを目的として、「緑のダム部会」が開催されている。これら矢作川流域圏の都市の取り組みが報告され、意見交換が行われた。

欧州型近自然森づくりに関しては、国内で最も近いと評価された「荒山林業」を有志によって視察を行い、矢作川流域圏内への展開について検討した。

(3) 今後の課題

- 流域自治体の森づくりに関する最新の進捗把握および自治体への意見発信。
- 流域の森づくり（矢作川流域圏に特徴的な森林等）の集約
- 構築したデータの公表および周知方法の検討

1.4 木づかいガイドライン

(1) 今年度の活動より分かったこと

①木づかいの推進

◆根羽村森林組合がまとめ役となり、流域圏への木づかい推進を行った。

表 木づかいガイドライン作成の取組み整理表

区分	主体者	内容
木づかいガイドライン	市民 行政 業界 研究者	「さあ~しよう」提案
木づかいライブ・スギダラキャラバン	根羽村森林組合	スギダラキャラバンの実施(次頁参照) スギダラ天竜支部との連携 木の魅力と楽しさを「森の民」が伝える 木製品の受注販売 木づかい推進の取り組みに対する公的資金による支援(公園等の木づかい推進拠点)
様々な木のある暮らしのアイテム提案	根羽村森林組合	どこでもシリーズ → 水平展開から垂直展開へ 動く木のおもちゃ → 木の魅力に釘付け・木の魅力への導き 流域ものさし → 全国共通アイテム化・私の流域甲子園 根羽物置 → 手が届く価格・実用的・自由設計・自分で建てられる 安曇野市 中房温泉 貸切風呂「根羽の湯」 → 露天風呂交流・青少年の動機付
矢作川デイズ、木づかい市民活動、フテトレード、流域連携	あそべるとよたプロジェクト 流域フェス 豊田市 市民 東幡豆漁業組合と根羽村森林組合 安城市と根羽村森林組合 中房温泉と根羽村森林組合 信州大学等と根羽村・根羽村森林組合 豊田市製材工場と根羽村森林組合 流域内工務店と根羽村森林組合	市民提案・参加型プレイスメイキングによる流域連携の拠点創設 流域連携イベント → 市民活動に向けたキックオフ 川会議による流域連携 私の流域物語・スギダラキャラバンへの参加による木の魅力の気づき 漁礁及び憩いの浜辺プレイスメイキング(場所のかづくり) 木材利用指針・公的資金支援・カーボンオフセットを原資とした木づかい推進活動 愛知県小中学生を対象とした温泉・山岳・森林・木づかいファンづくり 流域資源活用・持続可能な流域づくりのための流域内知の集積ツアー お互いに補完しあう矢作川流域材の生産・流通 木づかい推進活動と連携した「子供の時から始める木の家づくり物語」 テーマ性・デザイン性・遊び心満載の二地域居住者向けコンパクト住宅

表 木づかいライブ・スギダラキャラバンの実績と予定

NO	イベント名	開催日	場所	備考
1	ほんわか里山祭り	3/22	豊田市 笹戸温泉	
2	オールアイシン家族祭り	5/17	刈谷市 アイシン高丘工場	
3	ワイルドツリーコラボイベント	5/24	伊那市 旧市役所広場	
4	TASK I サミット	7/7	根羽村	
5	豊田市Tフェイスアウトドアフェスタ	7/18	豊田市 Tフェイス	
6	アイシン夏の陣	7/25	根羽村	
7	安城市デンパーク無料開放デー	7/25	安城市 デンパーク	
8	わくわくネイチャースクール	7/30.31	根羽村	
9	全国水源サミット	9/4.5.6	根羽村	
10	信州大学農学部カラマツ祭	9/18.19.20	南箕輪村	
11	足助夢里まつり	9～10月	豊田市	
12	建築総合展	10/1.2.3	名古屋市 吹上ホール	
13	あそべるとよたプロジェクト	10/19～11/1.2.3	豊田市 駅前広場	T-フェイス
14	エコットイベント	10/31	根羽村	
15	豊田市浄水北小木製遊具伐採調達	11/6	豊田市	
16	アイシン秋の陣	11/7	根羽村	
17	メッセナゴヤ 2015	11/4.5.6.7	名古屋市 メッセナゴヤ	
18	飯田合庁木づかい推進フェア	11/16～20	飯田市	
19	とよた森林学校 杉の魅力に迫る	2/28 (予定)	根羽村	
20	ほんわか里山交流まつり	3/20 (予定)	豊田市	

②活動の成果

<様々な木のある暮らしのアイテム提案>

- ◆動く木のおもちゃをWGで体験するとともに、興味を引くアイテムを選抜した。



図 動くおもちゃを体験し評価を行う部会員

- ◆安城市や豊田市の木づかい推進においては、動く木のおもちゃが高く評価され、安城市ではカーボンオフセットの活用した市内全域への拡大が予定されている。また、豊田市では殺風景な空間にプレイスメイキングを行うことで集客力が大幅にアップすることがわかり、WGにおいて周知された。



図 「動く木のおもちゃと木のある暮らしのアイテム展（安城市デンパーク無料開放デー）」の様子



図 プレイスメイキングの効果（豊田市あそべるとよたプロジェクト）

- ◆流域ものさしの作成においては、WGの中より木材の提供の申し出があったほか、用いる樹種についての意見交換が行われた。また、製作に関しては、山村再生担い手づくり事例集で取材を行ったファーストハンド等に依頼する等、山村再生担い手づくり事例集の取材で築かれた人脈を活用する意見が出された。



図 流域ものさしの試作品

- ◆どこでもシリーズに代表される「根羽物置」においては、一般市民に好評であったことが周知され、販売後のアフターケアの重要性が話し合われた。
- ◆中房温泉に建設された根羽スギによる温泉施設は、有志による見学会が実施され、流域材の活用事例を学んだ。



図 根羽スギを用いて造られた根羽物置（左）と家族風呂（右）

<矢作川ディス・木づかい市民活動・フェアトレード・流域連携>

- ◆根羽村では、小学生が源流から河口まで自転車で走破したことが周知された。WGでは、下流の小学生を対象に流域を自転車で下るイベントを実施してみたいという意見が出た。また、山村再生担い手づくり事例集の取材先に協力を得てはどうかとの意見もあがった。次年度以降のWGにおいて部会員が試験的に体験し、その後、本格的な実施に向けた検討を行う予定である。



図 矢作川を走破した小学生の発表資料

(2) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針1】

平成26年度に作成した提案型「木づかいガイドライン さあ~しよう」の原案を基本に、各提案項目について提案が可能なものから順次提案者へ原稿を依頼して作成業務を行う。

【活動方針2】

「木づかいガイドライン」は、こうした方法で順次提案者に作成依頼を図りながら、その内容を増やしていく。

【活動方針3】

並行して開催する「木づかいライブ・スギダラキャラバン」は、「木づかい」推進のリーダー役を務める根羽村森林組合が、里山市民グループ・地元工務店、地域の団体等と連携しながら、地域内のイベントとジョイントを図り、地域に活力を生み出す元気な人の輪を育成する。

【活動方針4】

「木づかいライブ・スギダラキャラバン」の開催を通して、「森づくりガイドライン・木づかいガイドライン」等の森づくりと木づかい情報を発信して、矢作川流域の森林資源・木づかい推進活動を紹介しながら、森や木づかいのファンを増やしていく。

【活動方針5】

同時に、木育アイテムや「どこでもシリーズ」等スギダラ商品の開発を図りながら、矢作の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を広く市民に提供して、その普及と定着を図る。

【活動方針6】

こうした楽しい「木のある暮らし」の普及を基本として、市民自らのアイデアと行動身近なあらゆる生活空間をスギダラケにする市民活動を生み出し、「人生を楽しみ愛する家族と共に幸せに暮らす。森や木とそれぞれを育む矢作川の流れと共に生きるライススタイル 矢作川ディズ」を確立する。

＜進捗状況＞

根羽村森林組合がまとめ役となって、情報収集を進めている。木づかいライブ・スギダラキャラバンについては、名古屋市・安城市・豊田市において情報を発信した。名古屋市ではメッセナゴヤ2015において、どこでもシリーズ「根羽物置」の展示を行い、購入希望者が出る等、木づかい推進に取り組んだ。安城市や豊田市においては「動く木のおもちゃ」を市民に実体験してもらい、流域材を使った遊び場を提供した。特に、「あそべるとよた DAYS」においては、木づかいによるプレイスメイキングを行うことで集客力アップが実証された。

現在、流域ものさしの作成に向けた、木材の確保およびデザイン・製作手法について検討を行っている。

(3) 今後の課題

- 山村再生担い手づくり事例集、山村ミーティングとの連携強化
- WGにおける展開方法、役割分担の検討

矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会編 vol.1



発行日：平成 27 年 6 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 24 回山部会WGを開催しました！

5 月 15 日（金曜日）に第 24 回山部会WGが豊田市森林組合の新庁舎にて開催されました。今回の WG では、昨年度の活動の報告と今後の活動方針を話し合いました。また、長崎大学の太田貴大准教授による「矢作川流域における生態系サービス供給—受益関係の地図化について」の特別講演とディスカッションを行いました。

日時：平成 27 年 5 月 15 日（金）13 時 30 分～17 時 00 分
場所：豊田市森林組合新庁舎 第 2 第 3 会議室
参加者：17 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



昨年度は、山村で活動する 21 の団体へ矢作川流域懇談会として取材を行い事例集としてとりまとめました。取材者と取材先の新しい交流が生まれ、新しいイベントや小商い、資金集め等の取組に発展しました。また、川・海部会との交流に寄与することができました。今年度も 20 以上の活動団体（川・海の団体を含む）を目標に事例集の作成を進めます。



2. 山村ミーティングについて



山村ミーティングは、矢作川流域で活動する個人・団体が困った時に話し合え、様々な情報を共有可能とする仕組みづくりを行うことを目的に進めています。

林業で言えば、プロから一般市民までが語り合える場所を木の駅等で行えるよう、呼びかけを行っていきたくと思っています。



3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



豊田市では、「豊田市森づくり条例」に基づき、「豊田市 100 年の森づくり構想」を平成 19 年に策定しました。この構想の実現に向け、間伐推進プロジェクト等の 6 つを柱とする具体的施策を行っており、これとは別に以下の新規事業を行います。

- ①地域材加工流通体制整備
- ②水源かん養機能モニタリング調査
- ③水道水源林間伐促進費補助金
- ④森づくり構想リニューアルプロジェクト・人工林現況調査業務、優良事例調査
- ⑤とよた森林学校開校 10 周年イベント



4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



昨年度は、「さあ～しよう」という提案型の「木づかいガイドライン」にするため、提案者に対し原稿依頼を行いました。同時に、根羽村森林組合をリーダー役とする「スギダラ矢作川流域支部」を発足させ、流域内のイベント等とジョイントさせた「木づかいライブ・スギダラキャラバン」をスタートさせ、流域の方々が連携して地域の生活空間を自らのアイデアと行動でスギダラケにしていこうという共通認識を持ちました。

今年度は、昨年度の活動を拡大し、森や木づかいのファンを増やしていきます。



5. 特別講演「矢作川流域における生態系サービス供給—受益関係の地図化について」を実施し、ディスカッションを行いました



現在、長崎大学の水産・環境科学総合研究科に在籍していますが、もともと名古屋市出身です。学生時代には、豊田市足助の森林を対象に社会科学的な面からの調査をしていました。それ以来、豊田市の森林に関わっています。

現在は、生態系サービスを研究テーマとしており、生態系サービスの評価、政策の中でどう活用するかについて矢作川を対象に考えてみたいと思います。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

- ・ 関連団体への取材を始めて今年度で3年目であり、今年度で事例集を完結させる。この取材によって山川海の交流に貢献できたと考えており、今年の9月には東幡豆漁業協同組合と交流イベントを考えている。(洲崎)
- ・ 根羽村で新たな取材候補を探してみる。(南木)
- ・ 事例集ⅠおよびⅡに掲載済で取材先に挙がっている候補は、他に候補が見つからない場合の対象とする。(洲崎)
- ・ 串原農林についても、他に良い取材候補がない場合の対象にするということにしてはどうか。(丹羽)
- ・ 取材先のマップを作ってはどうか。(蔵治、洲崎)
 - ▶ 事例集に関わる場所をGISにてマップ化し、HPに掲載することも可能である。住所あるいは紙媒体の地図などで位置を特定してマップ化し、HP上に掲載するときは、個人情報に配慮した表現を検討する。(事務局)

●山村ミーティングについて

- ・ 流域全体に木の駅が広がってほしい。流域全体の森の健康診断ができたのは矢作川だけである。(丹羽)
- ・ 矢作川「川会議」が今年15回目になる。流域を通じて川をよくしたい、という考えのもとに「山川海流域フェスティバル」みたいなものを開きたいという話が出ている。川べりの、いい雰囲気の中で開催することを考えている。シンポジウムではなく体験型の楽しいイベントにしたい。(洲崎)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

- ・ 施策の持続性はどうか。新たな担い手は確保できるのか。(丹羽)
 - ▶ 豊田市も構想リニューアルを考えている。3年かけて新しくしていく、というねらいで考えている。海外を含めていろいろな事例を見ていく予定である(鈴木)
- ・ 山間地で生まれ育った人が担い手として育たず離れていく。それは作業員賃金が確保できず、木材価格も安いから、家族を養えないことも原因にある。(林)
- ・ 最上川流域全体と広島安佐南で森の健康診断をやりたいという話が出ている。その話が出たのもそこで災害があったからである。矢作川モデルを「日本を救うモデル」として広めていくという意識で活動すべきである。(丹羽)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- ・ スギダラキャラバンの予定の一つとして、TASKI(中部先進5都市環境)サミットを根羽村にて開催してもらえることになった。また、安城市の働きかけによって安城市でいくつかイベントを行う予定である。(今村)
- ・ 燕岳(つばくろだけ)下に根羽の木を使った家族風呂を作って根羽をアピールしている。活動の中で曲げわっぱのお弁当作りが第13回SBC学校科学大賞優秀賞を受賞した。また、根羽の木で木の丸太皿を作り、KIHACHIで使用してもらっている。他に、根羽の木を使ったおもちゃを作るなどしている。子供のころから木を使うことで木を好きになるよう意識付けし、教育していこうと考えている。(今村)

●講演会：矢作川流域における生態系サービス供給－受益関係の地図化について

生態系サービスを森林にどう使い、それを政策に活用する方法を表現したいと考えています。これまでは特定の場所だけが地図化されていましたが、広く供給地と受益地に関する科学的な研究をしたいと考えました。研究として市民が住民税などで支払っている水源かん養などの受益税を、受益者が受益した分だけ払い、しかも供給元へその分を渡す仕組みをつくることを目的としています。

- ・ たとえば、洪水がよくおこる地域の人たちが受益者となるが、弱者ともいえるそういった人々が受益税としてより高い額を払うというリスクを負うことになるのは、国民全体の平等性がなくなるのではないかと。(蔵治)
- ・ 鳥についてアメリカのポテンシャルマップを参考に試行しているが、アメリカのような広いところではある程度正解ができるが、愛知県だと正解になる以上に、不正解が多くなる。地勢が違う国のモデルで検討するのは難しいのではないかと。(高橋)
- ・ コンセンサスのとれた「良い森」のモデルを作り、それを目指して人が森を作っていくという方法もあるのではないかと。(今村)



今後のスケジュール(予定)と情報提供

次回の山部会WGは、6月11日(木)根羽村にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会編 vol. 2



発行日：平成 27 年 6 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 25 回山部会WGを開催しました！

6 月 11 日（木曜日）に第 25 回山部会WGが根羽村しゃくなげホールにて開催されました。今回の WG では、山村再生担い手づくり、山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインについて、今年度の活動の進捗状況と課題について話し合いました。

日時：平成 27 年 6 月 11 日（木）13 時 30 分～16 時 30 分
場所：根羽村老人福祉施設しゃくなげホール
参加者：13 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



今年は、山村再生担い手づくり事例集の 3 年目であり完結の年です。それに向けて、今回は、前回会議で話題となった流域マップについて、山村再生担い手づくり事例集の取材団体の「活動拠点」「問い合わせ場所」を地図にまとめました。また、今年度の取材先（20 団体を目標）も検討中です。そこで、今回は以下の内容を議論し、今後の活動に活かしたいと思います。



- ①山村再生担い手づくり事例集に関する流域マップの表現（表示）方法
→活動拠点のみ、問い合わせ住所のみ、活動拠点+問い合わせ住所 など
- ②山村再生担い手づくり事例集の取材先の検討
→新たな活動団体の開拓（文化的活動団体に対する取材拡大） など

2. 山村ミーティングについて



現在、山川海流域フェスティバルの開催ができるよう検討を進めています。フェスティバル目的は都市や田舎の子どもにかっこいい木こりの姿を見せて興味を引きたいのが目的ですが、単なるプロの競争となっては面白くならないと思います。プロの審査基準、素人の審査基準をそれぞれづくり、競争ができればなと思います。今月中に、素人の審査基準を関係者で検討し、冬までに関係者でフェスティバルの実験をしてみたいと思います。



3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



森づくりガイドライン作成の活動に関し、矢作川にも応用可能と思われる事例と 6 月 28 日に開催されるシンポジウムの紹介をいたします。また、流域の森づくりの活動状況について、流域市町村に文書での聞き取りを開始しました。中でも、近自然森づくりについては、矢作川流域圏にも取り入れることができるか検討したいと思います。

- ①神奈川県では源流域の活性化を目指した流域通行手形の活用事例
- ②スイスで取り入れられている近自然森づくりについてのシンポジウムの紹介
- ③矢作川流域の森づくりに関する事例等の提供依頼（流域の自治体及び中部森林管理局）



4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



「スギダラ商品の開発を図りながら、矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を広く市民に提案して、その普及と定着を図る」という 27 年度の活動方針の 5 番目の具体的取り組み事例として、小学生やファミリー向けの「動く木のおもちゃ」を 23 種類考案しました。どのおもちゃが良いか本 WG で選んでいただきます。また、「流域ものさし」について、天竜川の流域ものさしを参考に、どんな形状・使いやすさか？長さはどうくらいが適当か？について検討を進めていきます。



◆話し合いでの主な意見 (●意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

<山村再生担い手事例集マップ(仮称)について>

- ・時間が経って情報が変わる場合はどうするか。(洲崎)
 - ▶ 先ずは〇〇時点ということで確定したもので良いのではないか。(丹羽)
 - ▶ 過去3年分の情報を、12月末くらいまでに確定し、年度末までに国土交通省のホームページにアップする。

<今年度の取材先について>

- ・引き続き皆さんからの取材先候補団体を募集中なので、心当たりなどあればお願いしたい。(洲崎)
- ・取材先はやはり豊田が多い。周辺部がないので、平谷村に一つ点が入るようにしてみたいと思う。(今村)
- ・流域圏が少しでも含まれれば、自治体すべてが入ってしまう。瑞浪などはそうである。(丹羽)
 - ▶ 活動範囲が含まれていれば本部は外でももちろん良いと思われる。(蔵治)

●山村ミーティングについて

- ・山川海流域フェスティバルの話を進めている最中で、冬前までに身内で実験を行いたい。(丹羽)
- ・山と川と海を結びつけるようなキャラバンのお互いを知れるものが大切で、特に地域資源で生きようとしている生業でやっている人たちを結びつけるようなキャラバンも行ってみたい。(今村)
- ・大人が流域圏流域圏と言っているも仕方なく、若い人をターゲットとしながらも流域の産業(第一次産業)についてお互いに知る必要があるのではないか。(山本)
- ・山川海流域フェスティバルというのは、カッコいい海の男、カッコいい山の男、カッコいい百姓などが集う場所というイメージで、都会の子や田舎の子たちにそれをみせるのでないかという意味がないと思う。(丹羽)
- ・フェスティバルが火付け役となり、キャラバンで実体験ができるとよい。(山本)
- ・それぞれの実行委員会が連携しながら準備を進めていくとよい。(洲崎)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

<近自然森づくりについて>

- ・スイスは日本と同じで単一樹種の一斉林、林業が立ち行かない、人件費が世界一高い、補助金がないという悪条件の中にあるが、今は収益をあげる林業をしている。それは、多種多層の混交林、陽光林というのをモットーとしており、なるべくたくさんの種類の林にすることで、木材の流行・移り変わりに対応できるものになっている。木造建築と木質バイオマス(ウッドチップ)を使って一つの集落がまかなえるようなシステムを構築している。フォレスターは森づくりから販売までの徹底的な専門教育を受けている。森づくりは人づくりであるということを徹底している。このような方法や教育を日本に取り入れられないか。(洲崎)
- ・森づくりガイドラインの立場として、矢作川流域でもキャッチフレーズが欲しい。近自然森づくりは矢作川流域でも活用できそうか。(蔵治)
 - ▶ 大いに活用できると思う。ある程度理解が進んだら、勉強会をしたい。(洲崎)
- ・矢作川の場合は、近自然という概念が、すでに河川で定着しているため受け入れられやすい。20年先を見据えて矢作川をモデルにできないだろうか。(蔵治)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

<流域ものさしについて>

- ・あくまで、ものさしとして使うのか。(洲崎)
 - ▶ 流域の概念を考える時にものさしとするのがわかりやすい。(今村)
- ・これは売り物にするのか、記念品とするのか。
 - ▶ 今の段階では小中学生の体験で作ってもらおうと考えている。(今村)
- ・自分の経験を入れても良いと思う。矢作川流域の人が皆持っていて話ができると面白い。(今村)
- ・フランスの村は意識的に子供に体験させている。田舎の学校が都会の真似をして、その結果子供が誇りを持ってなくなってしまう。子供の頃に誇りが持てれば出ていかない。または、出て行っても戻ってくる。今はそういう学生が増えている。この活動はとても良いと思う。(山本)

今後のスケジュール(予定)と情報提供



次回の山部会 WG は、7月24日(金)~25日(土) 恵那市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会編 vol.3



発行日：平成 27 年 8 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 26 回山部会WGを開催しました！

7 月 24 日（金曜日）に第 26 回山部会WGが奥矢作レクリエーションセンターにて開催されました。今回の WG では、山村再生担い手づくり、山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関する、進捗状況と今後の進め方について話し合いました。

日 時：平成 27 年 7 月 24 日（金）13 時 00 分～16 時 00 分
場 所：奥矢作レクリエーションセンター（大会議室）
参加者：13 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



今年は、山村再生担い手づくり事例集作成の 3 年目であり完結の年です。そこで、今回は以下の内容を議論し、今後の活動につなげたいと思います。

①取材先の決定について

→おいでん・さんそんセンターからも情報提供があり、現時点で 20 を超える団体が候補となっています。本日は取材候補について、さらに精査を行い、取材先を決定したいと思います。

②事例集マップ（仮称）の確認について

→配布の事例集マップ（仮称）について、出席者で確認を行います。



2. 山村ミーティングについて



現在、山川海流域フェスティバルの開催ができるよう検討を進めています。現在、以下の 2 つの課題に対し検討を進めていますが、皆さんのご意見をいただければと思います。

①森林ボランティアや素人山主の見せ方について

→都会・流域の市民に楽しそうな仕事だと思える見せ方が課題となっています。

②流域のプロの募集方法について

→目標の技術を競い合う明確なものであるが、流域のプロの募集方法が課題となっています。



3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



森づくりガイドラインに関連して、以下の 2 点を報告します。皆さんのご意見をお願いします。

①森づくりに関する事例等の提供依頼（流域の自治体及び中部森林管理局）について

→中部森林管理局、岐阜県、岡崎市、西尾市、安城市、碧南市からは回答をいただいております。岡崎市と恵那市の間伐面積は、過去最低となっています。

②欧州型森林管理者研修 in 奈良の参加報告について

→欧州型の森林管理は、人材を育てるところにウエイトがあります。矢作川流域の森林管理への適用についても、参考にできる部分はあると思います。



4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



木づかいの活動に関連して、以下の 3 点について報告します。

①木づかい学習会について

→各自治体で推進しています。動くおもちゃは県の補助事業に採択されました。

②全国源流サミットについて

→9 月 4 日～6 日に根羽村で開催されます。

③木づかいガイドラインについて

→根羽村では 50 年後に人口が 0 にならないようにするための取組をしています。



◆話し合いでの主な意見 (●意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

<今年度の取材先について>

- ・現時点で25団体が候補になっている。取材が困難になった場合も想定して合計22団体程度を選びたい。(洲崎)
- ・日近太鼓(岡崎市)は、太鼓フェスティバルを通して地域おこしに貢献している。今回は、文化的な観点から取材先に推薦した。(沖)
- ・蒲郡市漁場環境保全協議会は、矢作川流域圏からは外れるが、周三河湾というくくりで加えたいと思う。(洲崎)
- ・これまで取材者が少ないことが、取材先数を限定してきた背景がある。(蔵治)

<山村再生担い手づくり事例集マップ(仮称)について>

- ・今回の確認の結果を反映するとともに、背景図を最新版にしてとりまとめを行う。(中田)

●山村ミーティングについて

- ・額田、豊田の旭や足助には名だたる熟練者がいるが、彼らを連れ出すのは非常に大変である。(丹羽)
- ・熟練者においても、見せたい人と見せたくない人にはっきり分けられると思う。(南木)
- ・地元の森林組合に女性班が誕生したため、多くの取材がきたが、未熟だという理由で取材を拒んだ経緯がある。やはり見せたい人と見せたくない人に分けられると思う。そのため、ボランティアや素人山主に伐採後の切り口を見せて、熟練者が教えるような競わない形式が良いかもしれない。(今村)
- ・技術ばかりに目を向けるのはよくないと思う。安全で楽しいということを示すことで、山主をやる気にさせるのが我々の役割である。(丹羽)
- ・最近では、林業未経験者が1ターンとして就農している。林業に携わる我々ですら熟練者が分からない状況である。そういう意味では、熟練者をみせる場は必要だと思う。(南木)
- ・流域のためには、熟練者も素人もどちらも大切であることを示す必要がある。そのためには、規模が小さくてもよく、あの程度で良いなら俺も出ると思わせることがフェスティバルの目標である。(丹羽)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

<①森づくりに関する事例等の提供依頼(流域の自治体及び中部森林管理局)について>

- ・岡崎市の間伐は年間500haを目標としているが、昨年は半分以下であり、流域圏全体でみても大幅に減少することが予想される。(蔵治)

<②欧州型森林管理者研修 in 奈良の参加報告について>

- ・矢作川流域でいきなり極相林を目指すと言われても難しい。現段階では、今ある広葉樹林をどうするか、針葉樹林を混交林にするのかというどちらかの議論しかないと思う。拡大造林政策(単一樹種-斉林)という日本のとった手法は、その方が効率よく経済性も高いという発想からきているため、その発想を捨てないと実用的ではない。(蔵治)
- ・根羽村では、人工林と混交林という環境林を残していく方向性は出している。ただ、実際には混交林の整備は進んでおらず、これから検討するというのが現状である。(今村)
- ・豊田市と岡崎市がそれぞれ長期森林計画を立てており、人工林の面積を2/3に減らして、残りの1/3は針広混交林にすると宣言している。しかし、どこでモデル的にやるかという議論は全くない。(蔵治)
- ・山主さんには、未だに人工林が儲かる時がくるという思いがあるため、混交林化には非常に抵抗が強い。その中に、エコノミーということもカバーできる混交林化という道があれば、良い流れができると思う。(洲崎)
- ・昔の恩恵を受けた世代の人は、切り捨て間伐をもったいないという。人工林と混交林のエリア分けは、保全上必要であると理解を求めているところである。(藤井)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

「矢作川について」(永井千遥さん(当時小学校6年)の作品を観賞して)

- ・根羽村の子どもが源流から河口まで旅したという記録は、流域圏懇談会でも取り上げて、その意義について理解する必要がある。山村の担い手事例集が充実してくると寄れる場所が多くなる。旅をしながら、地域の人々の生き方を学ぶのは大切な事だと思う。(今村)
 - ▶小学生が、流域で生活をする人に取材しているところが素晴らしい。(蔵治)
 - ▶この方に取材したいぐらいだ。(洲崎)

今後のスケジュール(予定)と情報提供

次回の山部会WGは、8月21日(金)岡崎市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会編 vol. 4



発行日：平成 27 年 9 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 27 回山部会WGを開催しました！

8 月 21 日(金曜日)に第 27 回山部会WGが岡崎市ぬかた会館にて開催されました。今回の WG では、山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関する進捗状況と今後の進め方について話し合いました。

日時：平成 27 年 8 月 21 日(金) 14 時 00 分～17 時 30 分
場所：岡崎市ぬかた会館(2 階 2～3 会議室)
参加者：16 名(事務局含む)



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



山村再生担い手づくり事例集作成について、年度内に 20 件以上の活動団体(川・海の団体も含む)への聞き取りとレポート作成を行います。取材先の候補は現時点で 23 団体となっています。今後のスケジュール案は以下の通りとなっています。

- 1) 取材先の確定(～8 月)
- 2) 取材者の募集、確定(～9 月上旬)
- 3) 取材者と取材先のマッチング(～9 月下旬)
- 4) 取材(9 月下旬～11 月)
- 5) 取材者によるレポートの作成・提出、交通費等の請求(12 月～3 月)

また、本日は取材者の立候補について、多くの方のご協力をお願いしたいと思います。



2. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



森づくりガイドラインに関連して、本日は岡崎市等の取り組みを 3 点紹介します。

①額田木の駅プロジェクトについて

→木の駅プロジェクトは、間伐材等を市場価格よりも高く買い取り森林整備を促進するのが目的です。岡崎市では、額田地区桜形町において平成 27 年 5 月 15 日(金)に木の駅プロジェクトが始まりました。木材の取引における対価は、現金ではなく、地域の商店でしか利用できない地域通貨(森の健康券)を支払うことで、地域経済の活性化を促します。

開駅時点での出荷登録者は 50 名を越え、地域通貨が使える登録商店も 46 店舗が加入しており、地域からも高い期待と関心が寄せられています。また、現時点の出荷数量は 490t で、市助成予算 840t の 58%に達しており、好調なすべり出しとなっています。

②岡崎市水循環推進協議会「緑のダム部会」について

→岡崎市では「岡崎市水を守り育む条例」に基づいて健全な水循環に関する基本方針、目標を定めた「水環境創造プラン」を策定しており、その進捗管理や健全な水循環に関する市長諮問について調査、審議するための機関として「岡崎市水循環推進協議会」が設置されています。今回、この協議会に対し、水量に関する重点施策の「再構築」について、市長から諮問されたため、その検討部会として蔵治先生を部会長とする「緑のダム部会」を設置しました。

③平成 27 年岡崎木こり塾について

→「自分の山を整備したい方」「ボランティア活動として、人工林の整備を目指す方」を対象に、人工林間伐基礎講座と人工林間伐実践講座を行います。



4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



本日は、木づかいライブ・スギダラキャラバンについて、安城市で開催された「動く木のおもちゃと木のある暮らしのアイテム展」の様子、「流域ものさし」の材料調達方法、今後開催する「あそべるとよた DAYS」、根羽村木材を活用した「どこでも根羽スギ物置き」を紹介します。良いアイデアがありましたら、ご意見をお願いします。

◆話し合いでの主な意見 (●意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

- ・ 昨年は3人組で3団体ほどを取材し、そのうち1団体をレポーターとして担当した。今年を取材方法はどのような仕組みで行うのか。(浅田)
 - ▶ 今年度も去年と同様の形態をとるものと考えている。(蔵治)
- ・ 皆さんに取材者としての希望を伺いたいと思う。昨年は、岡崎市環境部からも2名参加いただいたか。(蔵治)
 - ▶ 持ち帰って検討したい。(井上)
- ・ 事務局補佐からの参加も考えている。(石原)
 - ▶ 昨年も事務局補佐の協力があつたと記憶している。是非、お願いしたい。(蔵治)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

<①木の駅プロジェクトについて>

- ・ 好調なペースで出荷されているが、出荷規格(末口10cm以上、長さ2m以上)の条件は大変かと思う。(今村)
 - ▶ 出荷された490tのうち半数以上プロの出荷者である。自伐林家10t、20tと出荷しているが、機械や重機を持ち合わせない素人山主にとって、搬出運搬手段が課題である。(唐澤)
- ・ 岡崎市からの補助金制度にも限りがあるので、小さくても良いので、額田に合った持続可能な仕組み作りが必要だと思われる。(浅田)
 - ▶ 地域外のボランティアが山に入れる仕組みが欲しいという意見は前回の会議でも出ている。丹羽さんがいう「山のお見合い」、すなわち自分ではできない山主と山を持たず林業に関わりたいボランティアをマッチングして、木の駅に材を搬出することで、多少の経費削減につながるような仕組みを作りたいと考えている。(唐澤)
- ・ これまで、地域外に買い物に出ていた人が、この地域通貨券を利用することにより戻ってきたと聞く。そのため、ゆくゆくは岡崎の街中で買い物をしている人々を、この地域に呼び戻すことができれば良いと考えている。(山田)
- ・ 矢作川流域では岡崎、豊田、恵那、根羽と流域を網羅する形で「木の駅」が動いている。(蔵治)

<②岡崎市水循環推進協議会(緑のダム部会)について>

- ・ 過去に愛知県が間伐を行っており、当時の県職員に森林の水源涵養機能の科学的検証を求めたが、具体的な回答がなかった。今後の部会では、矢作川流域に1つのモデルを設定して対策を行うことで、その間伐などの効果を科学的に見える化してはどうか。その結果を山の人々が認識し、街の人に見せることが大切である。(荻野)
 - ▶ とても大事な意見である。荻野さんの子どもの頃に比べ、明らかに水が減ったなど思える川が額田の上流に存在するのか。(蔵治)
 - ▶ 岡崎市北部の鍛埜町内を流れる乙川では、明らかに水が減ったし川幅が狭くなった。(荻野)
- ・ 水源涵養機能を産業とは別の立場で評価する岡崎市の取り組みは、日本全国でも例がなく、先駆的で素晴らしいものであるため、全面的に協力したいと考えている。(蔵治)

<③平成27年岡崎木こり塾について>

- ・ 受講者は山主が多いのか、ボランティアが多いのか。(浅田)
 - ▶ 山主からボランティアまで、幅広く参加している。(唐澤)
- ・ 講座終了後、既存の団体を紹介すると明記しているが、既存の団体に突然入るのはハードルが高いと思われる。そこで、受講した同期で新たな団体を形成してはどうか。たいてい受講者のうちの1人は山主がいて、その山主の土地を同期で管理しようという流れになることが多い。(蔵治)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- ・ 安城市と根羽村は、水源の森という全国初の森林整備協定を結んでいる。(今村)
- ・ 二つの自治体は距離が離れているにも関わらず、上流域と下流域のつながりが保たれている。安城の小学生が根羽村で間伐体験を行っている。明治用水の初代の理事長さんの考えは「水を使う人は、水を作る人のことを考えなさい」という100年以上前の教えであるが、今でも受け継がれている。(野村)
- ・ かつて伊勢湾台風や三河地震が起こったときに、下流域の人が山に木を買いにきたという話を聞いている。今回の安城市と根羽村の関係はそれを思い出させるものであり、今後の展望に光が見える。(齋藤)

今後のスケジュール(予定)と情報提供



次回の山部会 WG は、9月25日(金)~26日(土) 東幡豆(海部会との合同)にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会編 vol. 4.5



発行日：平成 27 年 9 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆山部会WGオブショナルを開催しました！

9月12日(土)～13(日)に山部会WGオブショナルが長野県にて開催されました。今回のWGオブショナルでは、木づかいガイドラインの一環として根羽スギを使った「中房温泉根羽の湯」、森づくりガイドラインの一環として「荒山林業」の見学及び研修を行いました。

日時：平成 27 年 9 月 12 日 (土) ～ 13 日 (日)
場所：中房温泉及び荒山林業
参加者：10 名 (事務局も含む)



◆主な活動内容

1. 根羽スギを使った中房温泉根羽の湯



中房温泉「貸切温泉 根羽の湯」は、長野県の「県民税」を活用した平成 26 年度長野県事業「信州の木活用モデル地域支援事業」によって建てられました。建物や湯船に根羽村のスギ材をふんだんに使用したお風呂となっています。根羽の湯の紹介文の中には、根羽村のモデル住宅「杉風（さんぷう）の家」、「小さく住まう魅力的な木の住まい」や木のアイテム「どこでもブランコ」、「どこでもオセロ」、「どこでも曲げわっぱ体験」、「どこでも根羽スギ物置き」・・・「どこでもシリーズ」といった根羽村の木づかいのお誘いをしています。



2. 荒山林業について



① 研修の経緯

・近自然の森づくりとは、環境と経営の両立を目指す林業形態であり、スイス・ドイツが発祥の地となっています。日本では3年前に近自然学会が創設され、その手法が浸透しつつあります。矢作川流域のこの地方においては、近自然の川づくりが定着しているため、市民に親しみやすい概念であると思われます。今回、洲崎主任研究員が6月に開かれたスイスフォレスター研修会に参加し、そこで日本で近自然の森に一番近いと言われる荒山林業代表の荒山里利さん(故荒山雅行さんの奥様)に出会いました。そして、研修会の中で矢作川流域の森づくりの参考になるのではという話になり、今回の研修が実現しました。



② 荒山林業の特徴

・荒山林業は、現在の荒山雄大氏で8代目となるが、植栽を行う現代の林業形態は、約100年前(大正時代)より始まりました。カラマツを植栽したのが始まりですが、所有地のうち6～7割が天然林であり、スギ・カラマツ・アカマツ・ヒノキの人工林は3割に過ぎません。人工林も天然林も基本的には伐期を設けず、非皆伐施業による単木管理を目標としています。



●カラマツ（樹齢 97 年）と落葉広葉樹の混交林

- ・ 林内には、曲がった木や折れた木が点在するが伐らないのか。
 - 先代の荒山雅行氏は「無用の用」と言い、一見無用にみえてもキツツキやムササビやモモンガが利用しているかも知れないと考えていた。非常に老荘思想に熟達していて、東洋哲学を重んじる人物であった。
- ・ カラマツの間伐は、基本的には小さな木から優先して伐るのか。
 - 単純にそうとは限らない。将来育てたい木を残すために邪魔な木を優先して伐る。



荒山林業の荒山里利代表の解説



曲がった木や折れた木が生かされた樹林



カラマツを林冠とする階層構造の発達した林分

●哲学の森（落葉広葉樹優占の森）～アカマツとブナの混交林

- ・ ここは新炭林時代から皆伐をしない施業であったか。
 - 荒山家の森には 100 年を超える木はほとんどなく、明治時代までは基本的には皆伐であったと考えられる。
- ・ スイスのフォレスターであるロルフ氏との選木バトルでは、伐る木と残す木に相違があったのはなぜか。
 - スイスのフォレスターは、請け負った中で採算をとる必要があり、育てるといふ考えはないからだ。



企業組合山仕事創造舎の香山由人代表の解説



ロルフ氏と荒山雅行氏の選木状況についての解説



カラマツの密生試験箇所

●のま地区（スギの人工林）

- ・ スギの植林は珍しいと思う。
 - この地域のスギ植林の歴史は、拡大造林期以降の荒山家が初めてである。そのため、苗木の出所がわからない。未だに北安曇地区はスギの主伐を行った経験がなく、未熟なスギ林業を展開している。
- ・ この地区の採算はどうか。
 - この地区ではマイナスである。別の地区で補助金による間伐を行っているため、トータルで±0 というのが現状である。



拡大造林以降の初めて試みたスギ植林



広葉樹が侵入した明るい林床



アスナロやヒノキが植栽されたスギの林床

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策宮 大森、係長 桑、技官 守野

TEL 0532(48)8107 / FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

山部会・海部会編 vol.5



発行日：平成 27 年 10 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 28 回山部会・海部会合同WGを開催しました！

9月25日(金)～26日(土)に第27回山・海部会合同WGが東幡豆にて開催されました。今回のWGでは、山部会の議事、海岸の観察、漁協組合・漁業者の方々との懇談、トンポロ干潟でのフィールドワークを行い、山と海における活動報告と矢作川流域圏の課題について部会の枠を超えて検討しました。

日時：平成 27 年 9 月 25 日 (金)～26 日 (土)
場所：東幡豆漁業組合 (会議室)
参加者：28 名 (山部会・海部会・事務局を含む)



◆主な会議内容

1. 山部会の議事



- (1) 山村再生担い手づくり事例集について
一昨年から、矢作川流域内で山村再生に関わる団体の取材を行ってきました。昨年からは山だけでなく川海に関わる団体も取材先として加え、東幡豆漁業協同組合にも取材させていただきました。今年は海部会の方にも取材者をお願いしたいと思います。
- (2) 矢作川流域山村ミーティングについて
次年度行う予定の矢作川流域フェスティバルにおいて、流域のプロとボランティア(素人)が技術を競い合うお祭りをしたいと考えており、現在検討中です。
- (3) 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて
矢作川流域での森づくりの現状を知っていただきたい観点から今日は岡崎市の取り組み(木の駅プロジェクト、緑のダム部会の創設)について紹介します。また、流域圏の自治体別の間伐状況、愛知県の素材の利用実態について報告します。
- (4) 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて
1つ目の柱として住民、業界、行政、教育から「さあ~しよう」というテーマで木づかいに関する情報を収集しています。2つ目の柱として木の魅力を発信するスギダラキャンペーンを進めています。3つ目の柱として木を使ったアイテムを流域に広める活動をしています。



2. 海岸の観察



ここでは干潮時に現れる干潟によって、港から前島に歩いて渡ることができるトンポロ現象がみられます。愛知県では珍しい場所であり、大切な観光資源でもありますので、流域の方々によく知ってもらいたいです。



3. 漁業組合・漁業者の方々との懇談



今回は山部会と海部会が合同で行う初めての会議です。通常、山部会はもとより海部会の会員にとっても漁業関係者の話を生で聞ける機会は珍しいと思います。そこで、漁業関係者がおかれている現状や山部会に対する要望など、部会の枠を超えて話し合いました。



4. トンポロ干潟周辺におけるフィールドワーク



- ・ゴミや流木の問題は、流域連携テーマにもなっています。トンポロ干潟では流木の問題は小さいですが、ゴミについてはペットボトルや空き缶など、いわゆる生活系のものが多くみられました。
- ・矢作ダムの砂の投入箇所周辺にはアサリが密集して生息していました。今後の砂の浸食と堆積を把握するためにリング法による計測を開始しました。
- ・干潟の生き物については、石川組合長より説明がありました。



リング法による干潟の計測開始

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山部会の議事について (参加者は、山部会員および海部会員)

<①山村再生担い手事例集について>

- これまでの活動では、取材先と取材者の間で林道をつくったり街中のイベントを行ったり、新しい展開が生まれつつある。流域の中でも自分の活動範囲にないところに交流ができる良いきっかけとなるので、海部会の方にも参加をお願いしたい。(洲崎)

<②矢作川流域圏山村ミーティングについて>

- 漁業の世界では1ターンの定着率が非常に悪いのが現状である。それは、地域に本物の人材を育てる覚悟がないためである。林業の1ターンの受け皿はどうか(鈴木)
 - ▶ 上流域においては、総合的な1ターンの受け入れは比較的充実している。しかし、林業に焦点をあてると、漁業と同じ現実がある。(丹羽)
- 根羽村で検討しているのは、「農地と林地だけでなく家を用意する」ことで、夢や希望が持てるのではないかということ。家があれば、元々自然が大好きな人が集まるため、給料は安くても何とかかなると思う。(今村)

<③矢作川流域圏森づくりガイドラインについて>

- 昔は漁港ごとに必ず水産加工場があった。漁獲量が多く値崩れを起こしている産品を買い上げて、地域ごとの一定の価格を維持していた。しかし、今は水産加工業が消えて、価格の緩衝機能をもたなくなった。こういう流れは、林業でも同じではないか。(鈴木)
 - ▶ 日本の山を伐採するかなりの業者が、山から直接製材する形態がとられ、丸太が流通しなくなった。(蔵治)
- 丸太の消費減少に関して、今は貯木場の機能が減退した。一部の反対者はいるものの、積極的に貯木場をつぶしているのが現状である。素材の需要量の減少と海の貯木場の減少が大きくリンクしていると思う。(鈴木)

<④矢作川流域圏木づかいガイドラインについて>

- 流域ものさしの長さは1.8mでよいか。(蔵治)
 - ▶ 統一規格としては、実物の100万分の1の11.8cmにして、あとは自由とする2種類を考えたい(今村)
- 環境省の緑の国勢調査の結果を使って、この10年で流域にどんな変化があったのかをみると面白い。(洲崎)
 - ▶ これは事務局補佐のアジア航測が得意技であるため、是非お願いしたい。(蔵治)
 - ▶ 作成する。(中田)
- せっかく山と海を結ぶという会議なので、夏休みに宿泊を組み込んだ市民参加型の筏下りをしてはどうか。(太田)
 - ▶ 次年度から矢作川流域フェスティバルという行事を企画している。それは、これまで川を主体としてきた川会議を山川海の人々を楽しくつなげるイベント的な行事にしたいと考えていて、10年前まで行われていた筏下りも復活させようと考えている。(洲崎)
- 流域キャラバンは、夏休みの子どもたちを対象に、茶臼山の源流地点から河口までを自転車で下るイベントも考えている。流域を知ることが次世代を育てる重要なカギだと思う。(今村)

●漁業組合・漁業者との懇談

- 漁協者の希望は①ミネラルの豊富な水を流してほしい。②良質な砂を流してほしいということだ。(石川)
- 近年の水質は悪化しているのか。(井上)
 - ▶ 夏に海底の酸素がなくなる貧酸素によって、魚が死ぬ確率が高くなっている。(鳥居)
 - ▶ 今まで貧酸素になる原因は、陸からの流入負荷(窒素とリンが流入したため)と考えられてきた。ところが、流入負荷が軽減しても一向に水質が改善されなかった。それは、干潟・浅場・藻場の埋め立てが原因だったのである。そもそも、海が健全であれば、少々の陸の問題など消し去るくらいの緩衝能力を持つことが証明されている。ところが、その緩衝能力を壊したので、余計に陸域の問題に敏感になってしまったというのが現状である。(鈴木)
- 海の漁業資源と担い手の良好な循環が形成される地域は日本に存在するか。(丹羽)
 - ▶ 名古屋に近い鬼崎では、海苔と小型底引き網を使う漁業が行われている。近年では若い世代がスキューバを使った採貝を行ったり、スキューバ教室をしたり都会との接点を持ち続けて収益を上げている。(鈴木)
- 海を壊滅的な破壊に導く開発については、漁業者がはっきり声を上げていくことが重要である。(鈴木)

●トンボロ干潟と合同部会全体の意見・感想など

- 海ゴミの中で、国はマイクロプラスチックの全国調査を行っている。前島では岩場のペットボトルが目につき、現状を目にすることができた。(石垣)
- 日頃は海部会に出席することが精いっぱいになっている。今後も合同部会を企画していただきたいと思う。(青木)
- 土砂の移動には、木の駅同様に「砂の駅」を流域につくり、市民の力で少しずつ河口に運んではどうか。(丹羽)

今後のスケジュール(予定)と情報提供



次回の山部会WGは、10月16日(金)~17日(土)岡崎市にて開催します。(海部会は今後決定)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijnet.or.jp)までお送りください



矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会編 vol.6



発行日：平成 27 年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 29 回山部会WGを開催しました！

10月16日（金）～17日（土）に第29回山部会WGが岡崎市ぬかた地区にて開催されました。今回のWGでは、山村再生担い手づくり、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関する進捗が報告されるなど、今後の活動に対する話し合いが行われました。



日時：平成 27 年 10 月 16 日（金）～17 日（土）
場所：岡崎市ぬかた会館（2 階 2～3 会議室）ほか
参加者：28 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



山村担い手事例集の取材者が決定しました。12月までに取材を行う予定であることを周知しました。

取材先	取材者
飯伊森林組合平谷事務所、天下杉、夕立山森林塾	近藤朗、石原淳
野外保育とよた森のようちえん、森のたまご、農村舞台アートプロジェクト、稲武山里体験推進協議会	清口裕太、宇野利幸、Siti Norbaizura、蔵治光一郎
おいでん・さんぞんセンター、老人福祉センターぬくもりの里、有間竹林愛護会	松井賢子、沖章枝、大森正昭、
あさひ森の健康診断、あさひ薪づくり研究会、しもやま再来プロジェクト	高橋伸夫、田中五月、桑淳
あすけ聞き書き隊、山里センチメンツ	洲崎燈子、今村豊
コレカラ商店、ファーストハンド、トム・ヴィンセント氏	丹羽健司、吉橋久美子
烏川ホテル保存会、額田木の駅プロジェクト、日近太鼓	清水雅子、井上崇也
蒲都市魚場環境保全協議会、島を美しくする会	浅田益章、井上祥一郎

2. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



森づくりガイドラインに関連して、本日は主に以下の2点について報告しました。

- ①矢作川流域市村（平谷村、根羽村、恵那市、豊田市、岡崎市）の間伐面積
矢作川流域市村全体の間伐面積は、2010年をピークに年々減少しており、特に昨年は大きく減少しました。国による間伐は搬出を義務付けていることから、間伐面積の半分を県税（搬出をしなくても補助金が交付される）に依存している状況です。
- ②矢作川流域市町村の森づくりに関する事例
行政に事例を募集したところ、長野県下伊那事務所、恵那市、安城市より回答をいただきました。



3. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



木づかいの活動に関連して、以下の3点について報告しました。

- ①根羽物置
→10月に名古屋で行われた建築総合展では、サンプル依頼もありイベントに使いやすいと非常に好評でした。実物を見ていただき、ご購入いただきたい。
- ②根羽村におけるヤギの投入の事例
→遊休農地の除草対策だけでなく、村の活性化の起爆剤としたいと考えています。
- ③木づかいガイドライン
→現在は根羽村森林組合が主体となって実績を作っています。今後は流域に展開していきます。



4. 岡崎市額田地区におけるフィールドワーク



今回は額田地区において、以下のフィールドワークを行いました。

- ①千万町地区の砂防堰堤
→千万町小学校を含む集落を守るために大規模な砂防堰堤が愛知県によって建設されましたが、保全対策として守るべき小学校は昨年廃校を迎えました。
- ②切山の大き
→樹齢1000年以上の大杉は、枝からクローンを形成する珍しい巨木でした。
- ③乙川（西風橋周辺）の水量の減少
→子どもが飛び込むことは難しく確かに水位が低下しているように感じました。その一方で下流側の堰堤に砂が溜まって河床が上昇した可能性も指摘されました。



◆話し合いでの主な意見 (●意見 ▶回答)

●山村再生担い手事例集について

＜山村再生担い手事例集の活用＞

- 事例集の活用について嬉しい報告がある。人間環境大学の学生さんより農業・林業体験がしたいという申し出があったため、事例集を渡したところ、宮ザキ園での茶摘み体験を行うことになった。今後、額田林業クラブにも授業の申し出があるかもしれない。その時はよろしくお願ひしたい。(沖)
- ▶ この事例集がきっかけとなり、人と人がつながれば素晴らしいことである。(洲崎)
- この事例集をインターネットで閲覧できるとよい。(太田)
- ▶ すでに豊橋河川事務所のホームページ上で公開されている。URLの拡散を望む。(洲崎)



●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

＜①矢作川流域市町村の間伐面積＞

- 保安林整備事業に含まれる間伐は、その事業自体の予算が大幅に減少しているため、間伐面積は減少の一途をたどっている。造林や水源基金の名目での間伐が可能であるが、県の森林税では間伐はできない。(山田)
- ▶ 森林税に保安林が含まれないという制約があり、これが問題である。(蔵治)
- 豊田市で補助金をつかった巻き枯らし間伐が、過去に4回確認されているが、なぜ一時期に集中したのか(沖)
- ▶ 豊田市は巻き枯らし間伐を進める予定であったが、景観の悪化や災害時の流木の問題から山主に理解が得られなかった。そのため、事実上巻き枯らし間伐は低迷している状況である。(蔵治)
- 巻き枯らし間伐は、生態系にとって林床植生が発達するなど非常に良い効果が期待できる。(洲崎)
- 千万町には、廃校となった小学校横に工事費6億～7億円の砂防堰堤が建設された。そのお金を間伐の助成に使っていただけたら、災害は減ると思う。現在、千万町では小学生や中学生は一人もいない。農林業では生活ができないため、若い人の流出が止まらなかった。間伐の必要性は皆十分承知しているが、どうにもできない。(山本)
- 愛知県の素材(丸太)の需要量のグラフでは、ピーク時(1973年)の1/40に減少してしまった。これは矢作川流域に限らず愛知県、日本全体の傾向である。(蔵治)
- 2014年は、根羽村においても間伐面積が大きく減少している。これは、雪害対策に間伐のための予算が使われたためと考えられる。(今村)
- 丸太が必要ないということだが、この部会ではその状況を打開する協議を行うべきではないか。(鈴木)
- ▶ 豊田市は、そういう危機感から製材工場の建設を決断した。額田地区の方々、真剣に木材生産の未来を考えるなら、豊田の製材工場を活用する戦略を協議すべきである。(蔵治)

＜②森づくりに関する事例＞

- 森づくりに関する事例収集については、流域の3団体の回答にとどまった。そのため、我々が他の事例を選定する必要がある。表現は工夫する必要があるが、どのような見せ方をすべきか。(蔵治)
- ▶ 事例集の取材先をマップに載せる作業を行っているが、同じ地図に載せるとよいのでは(洲崎)
- ▶ 今年度は、ベースを作成したいと考えている。(大森)
- 特徴的な森づくりの事例というのは、あまり難しく考えずに、この森を見てもらいたいという発想でよいのではないか。(今村)
- 森林組合などの一押し森(巨木・銘木にとらわれずに)を紹介してはどうか。(北川)
- ▶ 引き続き、森林組合や部会からご推薦いただきたい。(蔵治)



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- 根羽村のヤギの放牧については、若者(子ども)の集客を期待している。今後はヤギの乳製品に展開したいと考えている。いずれの活動にしても必ず若者(子ども)が関わることを意識している。(今村)
- 「あそべるとよたDAYS」は、豊田の中心市街地活性化を目的とする初めての取組みであり、そこに根羽村が参画することになった。矢作川の上流域と下流域がお互いに元気になるような企画である。このような取り組みが流域に広がることを期待している。(洲崎)
- ▶ この取組みは、流域圏懇談会で毎回言われている「流域内フェアトレード」の見える化である。(今村)
- 社会の需要を考えると、今は丸太ではなく別のものが求められていて、その時代に沿って考えているのが「矢作川流域圏木づかい」である。その主役は、流域内の若者や子どもであると考えている。(蔵治)

今後のスケジュール(予定)

次回の山部会WGは、11月27日(金) 恵那市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会編 vol. 7



発行日：平成 27 年 12 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 30 回山部会WGを開催しました！

11 月 27 日（金曜日）に第 30 回山部会WGが上矢作林業センターにて開催されました。今回の WG では、山村再生担い手づくり、山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関する、進捗状況と今後の進め方について話し合いました。

日時：平成 27 年 11 月 27 日（金）14 時 00 分～17 時 10 分
場所：上矢作林業センター（大会議室）
参加者：19 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



今年は、山村再生担い手づくり事例集作成の 3 年目であり完結の年です。現在、22 団体の取材を行っています。本日は、取材の進捗状況の確認と今後の予定について話し合います。

①取材の進捗状況

既に取材が終わった団体（4 団体）

◆稲武山里体験推進協議会 ◆おいでん・さんそんセンター ◆有間竹林愛護会 ◆あさひ森の健康診断

今後取材を行う団体（18 団体）

◆飯伊森林組合平谷事務所 ◆天下杉 ◆タ立山森林塾 ◆野外保育とよた森のようちえん 森のたまご ◆農村舞台アートプロジェクト ◆老人福祉センターぬくもりの里 ◆あさひ新づくり研究会 ◆しもやま再来るプロジェクト ◆あすけ聞き書き隊 ◆山里センチメンツ ◆コレカラ商店 ◆ファーストハンド ◆トム・ヴィンセント氏 ◆鳥川ホテル保存会

◆額田木の駅プロジェクト ◆日近太鼓 ◆蒲郡市漁場環境保全協議会 ◆島を美しくする会

②今後の予定：12 月⇒中間報告会、12 月～3 月⇒レポートの作成・提出・交通費等の請求

2. 山村ミーティングについて



当初は、山の担い手が一同に会する場づくりが目的でした。現在は、流域内の山の担い手が、一同に会することを本当に望んでいるかを含め、関係機関に声をかける難しさに直面している。

①現場仕事を持っている人に、夜に集まれというのは体力的に無理がある

②流域市村によって、森林組合の構成や規模が異なっている（I ターン中心の組合や地元中心の組合がある）

山村ミーティングの進め方について、皆さんのアイデアを伺いたい。

3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



森づくりガイドラインに関連して、以下の情報提供と検討を行いたいと思います。皆さんのご意見をお願いします。

①全国植樹祭に関する中日新聞（岐阜地方版）の記事紹介（資料 1）

②豊田市中核製材工場の稼働開始、豊田市森林計画のリニューアル（資料 2、3）

③岐阜県民協働による森の通信簿事業（資料 4）

④恵那市の森づくり推進委員会の現況（資料 5）

⑤矢作川流域の特徴的な森林、樹木の地図上での表現方法の検討（資料 6）



4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



木づかいガイドラインに関して、現在の進捗を報告します。皆さんのご意見とご感想をお願いします。

①流域ものさし（スギ、ヒノキなど 12 種類の原木を入手済で年内に見本を作りたい）

②あそべるとよた DAYS（11 月にどこでもシーズを出展して、大盛況を得た）

②どこでも根羽物置（メッセナゴヤ 2015 に出展して、注文を受けるなど好評を得た）

③根羽村の間伐実績によるカーボンオフセットクレジット購入（下流域の自治体に CO₂ 吸収量を購入してもらい、それを原資として木づかいを推進する）

④豊田市浄水北小学校での間伐作業（学有林を活用して木づかいを推進する）



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

＜取材の進捗状況と今後の予定＞

- ・ おいでん・さんそんセンターの所長さんとは初めてお会いしたが、色々なところに関わっておられて驚いた。取材の中で感じたことは、豊田市は地域の担い手に対して、非常に厚い支援を行っていることであった。(松井)
- ・ 中間報告会の日程を決めた方が良いのではないかと。次の山部会 WG は 12 月 21 日であるが 12 月の夜は忙しいかも知れない。1 月ではだめか。(蔵治)
 - ▶ 中間報告会を 1 月 6 日 (水) 19 時より行いたい。場所は豊田市職員会館とする。(洲崎)
- ・ とりまとめについて、イメージとしては 2 月の全体会までに体裁を整えたい。全体会議に冊子があるとインパクトが違う。是非、間に合わせたい。(蔵治)

●山村ミーティングについて

- ・ おそらく現場の技術者たちの根はやさしく、環境や地域に貢献したいという熱い思いを持った人たちである。ただ、恵南森林組合の平均年齢は 40 歳前後であり小さな子どもがいて、材木価格が安い中でコストや技術力向上のことを考えている。しかし、毎日の作業に追われ、なかなか同じ思いを持つ仲間が集まる状況にはない。汗をかくことに意義を感じるボランティア的な方々とは価値観が違うと思う。(小林)
- ・ ボランティアとの共通のテーマとなり得るのは、技能の向上や安全面だと考えられる。技能の向上に関しては、恵南森林組合であれば架線の張り方、我々であれば国道沿いの木の搬出などのプレインストーミングをしてみてもどうか。また、安全面に関しては、特に事故についてお互いの意見を出し合い、改善を議論すべきである。もちろん、お酒を交えたと効果的である。(今村)
 - ▶ 色々な状況を考えながら進めていきたい。(丹羽)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

＜豊田市中核製材工場の稼働開始＞

- ・ 根羽村森林組合でも、実施業者の西垣林業社長よりご挨拶いただいた。西垣社長からは、矢作川流域材という視点から、お互いに補完しあう関係で業務にあたりたいと説明を受けている。(今村)
- ・ 西垣林業の伊藤さんに流域圏懇談会への講演をお願いしたところ了承を得た。そこで 1 月に行われる地域部会にお招きしたいと思う。(蔵治)

＜恵那市の森づくり推進委員会の現況＞

- ・ 恵那市では森づくり推進委員会が平成 22 年に設置され、5 年ごとにとりまとめと新たな目標を設定している。平成 28 年度からの 5 年間は、基本的には前期と同じであるが、伐り置き間伐から利用間伐への転換やバイオマス施設の導入など、再検討を行っている。(原田)
- ・ 地域材利用の拡大に関して、どのような具体的な目標を持っているか。(今村)
 - ▶ 恵那市の地域材で柱 30 本以上を使った場合に助成する仕組みとなっている。それは、市外からの定住を目的としており、市内の移住に関しては、税制面で優遇を受けられるような支援を検討している。(原田)
- ・ 公共事業における地域材の利用とは、どのような建物が対象となるのか。(今村)
 - ▶ 学校、幼稚園、役所、公民館などがこれにあたる。(原田)

＜矢作川流域の特徴的な森林・木＞

- ・ 今年度中に成果として形にしたい。位置情報はどの様に収集するか。直接事務局補佐に連絡するか。(蔵治)
 - ▶ どちらでも構わない。どちらでも連絡を取り合うようにする。(大森)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

＜流域ものさし＞

- ・ ものさしの長さを川の距離に対応させると、短い河川では肩身がせまい。規格を揃えた方がよいと思う。(高橋)

＜どこでも根羽物置＞

- ・ 建物は水平を出すのが難しい。その対応パーツなどがキットに含まれるとよい。また、目的が物置だけでなく書斎にもなると需要が高まると思う。(高橋)

＜豊田市浄水北小学校の伐採作業＞

- ・ 恵那市の長島(おさしま)小学校では森の健康診断から木を使うところまでの仕組みづくりを目指している。流域は庄内川水系であるが、川を挟んだ関係ができればよいと思う。(丹羽)

今後のスケジュール (予定)

次回の山部会 WG は、12 月 21 日 (月) 豊田市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

* 矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。



発行日：平成 28 年 1 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 31 回山部会WGを開催しました！

12月21日(月曜日)に第31回山部会WGが豊田市職員会館にて開催されました。今回のWGでは、山村再生担い手づくり事例集、山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関する、進捗状況と今後の進め方について話し合いました。

日時：平成 27 年 12 月 21 日 (月) 13 時 00 分～16 時 00 分
場所：豊田市職員会館 2F 第 1 会議室
参加者：18 名 (事務局含む)



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について

現在、山村再生担い手づくり事例集は、取材が概ね終了し、とりまとめに移行しています(資料 1)。今日は取材を終えての感想、意見などを班ごとをお願いします。なお、1月6日(水)に事例集の中間報告会を行います。取材先に確認を行っていない状況でも全員で読み合わせを行います。矢作川研究所にお集まりください。それ以降は、1月中に完成版を提出、年度末にかけて校正を行ってまいります。



2. 山村ミーティングについて

山村ミーティングの進捗状況は、前回のワーキングから大きな変化はありませんが、山村再生担い手づくり事例集や木づかいガイドラインで様々な人間関係が構築されてきました。この人と人のつながりを、新たなイベントの創出につなげることはできないかと考えています。引き続き、良い意見があれば募集しますので、よろしくお願いします。



3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインに関連して、以下の情報提供を行います。皆さんのご意見をお願いします。

- ①矢作川流域圏の特徴的な森林に関する段戸裏谷原生林の紹介(別添資料)
- ②矢作川流域圏の特徴的な森林と巨木・並木のマップ(資料 2)
- ③市民発！まちづくりシン展事業(半農半林)の紹介(別添資料)
- ④森林整備講演会・シンポジウム-緑の宝物 岡崎市の森林-の事後報告(回覧)
- ⑤第 1 回あさひ森の健康診断(初の地域主催)の事後報告



4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインに関して、現在の進捗を報告します。皆さんのご意見とご感想をお願いします。

- ①流域ものさし(どのような木を用いて、どのように制作するか)
- ②あそべるとよた DAYS のその後(プレイスメイキングの効果と展開)
- ③次世代を担う子供たちにとその親に向けて
- ④林業立村シンポジウム(於：十津川村)の事後報告



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

＜取材の進捗状況と今後の予定＞

- ・ 天下杉という演芸団体の取材を担当したが、6 時間を超える取材および学ランを着て自ら出演するといった状況は、初めての体験であった。重要なキーワードとして、担い手が若者である必要はなく、年齢を重ねても自ら行動することが大切だということ学んだ。(近藤)
- ・ 今年度で予定していた 3 冊の事例集が完成するが、来年度以降は取材者と取材先が集まれるようなミーティングイベントをしたいと考えている。事例集に書けなかったことや後日談がきっとあると思う。(洲崎)
 - ▶ 面白い。今回の取材先である天下杉は、過去に取材した「ねば杉っ子餅」や「きくの会」との関わりが深く、メンバーもオーバーラップしている。流域(山村)文化祭という考え方だけでなく、木づかいとの関わりを目指すことも可能であると考える。(近藤)
- ・ 老人福祉センターぬくもりの里は、福祉施設というより建物全体が美術館のようなギャラリーになっていた。福祉は受けるだけではなく、入所者が持っているパワーを引き出す場所だと感じた。(沖)
 - ▶ 今回は文化的な活動団体が加わったため、取材の経験者も新たな経験をしているようだ。(洲崎)

●山村ミーティングについて

- ・ 今後とも流域の人々が何かの形で交わるイベントを模索したいと思う。(丹羽)
 - ▶ 山村再生担い手づくり事例集で培った人間関係を活用したイベント、先ほど提案された流域(山村)文化祭と協働してはどうか。(蔵治・洲崎)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

＜矢作川流域圏の特徴的な森林に関する段戸裏谷原生林＞

- ・ 段戸裏谷原生林は、北設楽郡設楽町の標高 1000m前後に分布する県内では数少ないブナクラス域の天然林である。多くの巨木も残存する自然度の高い場所であるため、矢作川流域圏の特徴的な森林に推薦した。(洲崎)

＜矢作川流域圏の特徴的な森林と巨木・マップ＞

- ・ 前回の WG と比較してだいぶ増えてきた。推薦したい場所はまだまだあると思うので、名称と緯度経度をお知らせいただきたい。(蔵治)

＜市民発!まちづくりシン展事業(半農半林)の紹介＞

- ・ この事業の補助金というのは、矢作川水源基金によるものか、豊田市によるものか。(蔵治)
 - ▶ 矢作川水源基金によるものである。(洲崎)
- ・ 実に様々な団体が、街と田舎をつないでいる。ご紹介の事業は、部会員の山本さんが代表を務めている。(蔵治)

＜森林整備講演会・シンポジウム-緑の宝物 岡崎市の森林-の事後報告＞

- ・ 12月6日に行われたシンポジウムの参加者は 107 名で会場のぬかた会館は満席であった。おそらく、山の人だけでなく街の人も多かったと思われる。(蔵治)
- ・ 岡崎市林務課の姿勢が積極的になられたと感じ、嬉しく思った。(沖)
- ・ 岡崎市林務課に成功させようという強い意志が感じられた。(丹羽)

＜第 1 回あさひ森の健康診断(初の地域主催)＞

- ・ 出席者は 60 名を超え、最上川(山形県)の森の健康診断の主催者も訪れた。出席者のほとんどが発言し、地域の未来を真剣に考えた。旭地区ならではのアットホームな熱い報告会であった。(丹羽)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

＜流域ものさし＞

- ・ 山村再生担い手づくり事例集では、木づかいと関わりを持つとの意見が出たが、木材加工を生業としている団体との繋がりは持てないか。(丹羽)
 - ▶ 連携する天竜川との関係から、ベースの製作では統一を図るため難しいが、その後のオリジナルの製作では是非流域圏の人々に声をかけたいと考えている。(今村)

＜あそべるとよた DAYS のその後＞

- ・ 県の森林環境税(県内の団体のみ有効)を財源とするようアピールおよびパッケージ化してはどうか。(蔵治)
 - ▶ 事例集を活用して、愛知県内の団体との繋がりを模索したい。(今村)

＜次世代を担う子供たちとその親に向けて＞

- ・ 今後開通する新東名の岡崎市内のサービスエリア(自然を題材にしている)に木づかいを売り込んでどうか。(高橋)

＜林業立村シンポジウム(於:十津川村)の事後報告＞

- ・ 豊田市や木の駅プロジェクトの内容も含まれ、この地域の取組みが先進事例として認められている。(蔵治)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijnet.or.jp)までお送りください。



4. 山部会 3 ヶ年（平成 25 年度～平成 27 年度）の活動成果と課題

○平成 25 年度の活動成果

山村再生担い手づくり事例集

- ・山村で活動する団体への取材を行うことができた。
- ・事例集（Ⅰ）としてのとりまとめが実施できた。
- ・取材メンバーとして、川・海の一部のメンバーの参加がみられ連携のきっかけ作りを行うことができた。

山村ミーティング

- ・年度内での WG 化はせず、関連する他団体の活動などがあった場合には情報共有を行った。

森づくりガイドライン

- ・森づくりガイドラインをよりよく理解するための「矢作川流域圏の森づくり」が行われ、メンバー間での情報共有を行うことができた。

木づかいガイドライン

- ・木づかいガイドラインの作成目的について共有化し、メンバーそれぞれにとっての木への想いについて意見交換ができた。
- ・作成に向けて WG の場でブレインストーミングを行い、活発な意見交換ができた。

○平成 26 年度の活動成果

山村再生担い手づくり事例集

- ・取材先として、川・海の団体を選定し、流域圏一体化に向けたきっかけ作りを行うことができた。
- ・「山村再生担い手づくり事例集の対象を増やししながら、川部会・海部会とも連携しながら作成する」という年度初めの目標に沿って、編集が行われた。
- ・前年度に続き、山村再生担い手づくり事例集(Ⅱ)を作成し、成果とした。

山村ミーティング

- ・WG において、関連する他団体の活動等に関する情報共有を行った。
- ・「各地域で実施されている活動と連携しながらできるところから進めていく」という年度初めの目標に対し、持ち回りで行われる山部会の会議に地元団体が出席した。

森づくりガイドライン

- ・流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインの作成が始まった。
- ・流域圏を構成する自治体から特徴的な森づくりに関する情報収集(現地調査含む)を山部会 WG で行った。

木づかいガイドライン

- ・「矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る」という目標に対し、木づかいガイドラインの骨子を示し、部会内で意見交換を行った。
- ・市民・行政・学識者から見た木づかいの推進策をまとめた木づかいガイドライン(案)について意見交換を行い、とりまとめた。

○平成 27 年度の活動成果

山村再生担い手づくり事例集

- ・山村再生担い手づくり事例集は、3 ヶ年で計 64 活動団体取材し、各年の成果をそれぞれ事例集 I, II, III として出版した。
- ・山・川・海の部会の枠を越えた連携により、取材・編集が行われた。
- ・過去の取材者が取材される立場になったり、取材者と取材先が新たなイベントを開催したり、新たな人間関係が生まれた。
- ・大学の講義（体験実習）に山村再生担い手づくり事例集が活用された。

山村ミーティング

- ・北海道中川町でのきこり祭りのような他地域でのイベントの成功事例が周知された。
- ・矢作川流域圏の規模が大きいこと、雇用主と被用者および林業従事者とボランティアの価値観が異なること、といった理由から、きこりに絞ったイベントの開催は難しいという認識を共有した。
- ・山村再生担い手づくり事例集や木づかいと連携したイベントの開催は可能である。
- ・豊田足助地区のもみじ祭りを山村ミーティングに活用できないかという意見が挙がった。

森づくりガイドライン

- ・流域の県・市村から森づくりの事例および間伐面積の情報収集（現地視察含む）を行い、現状と課題を明らかにした。
- ・流域の特徴的な森林と巨木・並木について、WG で意見交換を実施し、選定作業を行った。所在地については、マップに表示し見える化を進めた。
- ・豊田市の森づくりに関する新規事業では、今後、水源かん養機能に関わる試験林の設定が予定されている。また岡崎市においては、国の法律（水循環基本法）に先立って条例（水を守り育む条例）が制定され、水循環推進協議会に対する「緑のダム部会」が設置された。これらの動きは、いずれも国をリードする取り組みであり、WG として意見を発信していくべきであることが周知された。
- ・モデル林となる森林（アライダシ自然観察教育林、荒山林業等）を見学した。

木づかいガイドライン

- ・「日本全国スギダラケ倶楽部矢作川流域支部」が結成され、木づかいライブ・スギダラキャラバンを展開した。
- ・流域ものさしの作成においては、WG で作成方法を協議し、木材の収集を実施中である。
- ・カーボンオフセットを活用した木づかいの検討、プレイスメイキングによる集客力を実証した。

○今後の課題

山村再生担い手づくり事例集

- ・事例集の活用や市民への普及
- ・事例集の効果の検証

山村ミーティング

- ・きこり祭りに代わるイベントの検討（例 流域フェスティバルや流域（山村）文化祭（仮称））
- ・森林組合や流域の担い手との繋がり強化

森づくりガイドライン

- ・流域自治体の森づくりに関する最新情報および自治体への意見発信。
- ・流域の森づくり（特徴的な森林等）の集約
- ・構築したデータの公表および周知方法の検討

木づかいガイドライン

- ・山村再生担い手づくり事例集、山村ミーティングとの連携強化
- ・WG における展開方法、役割分担の検討

今後の山部会の活動方針

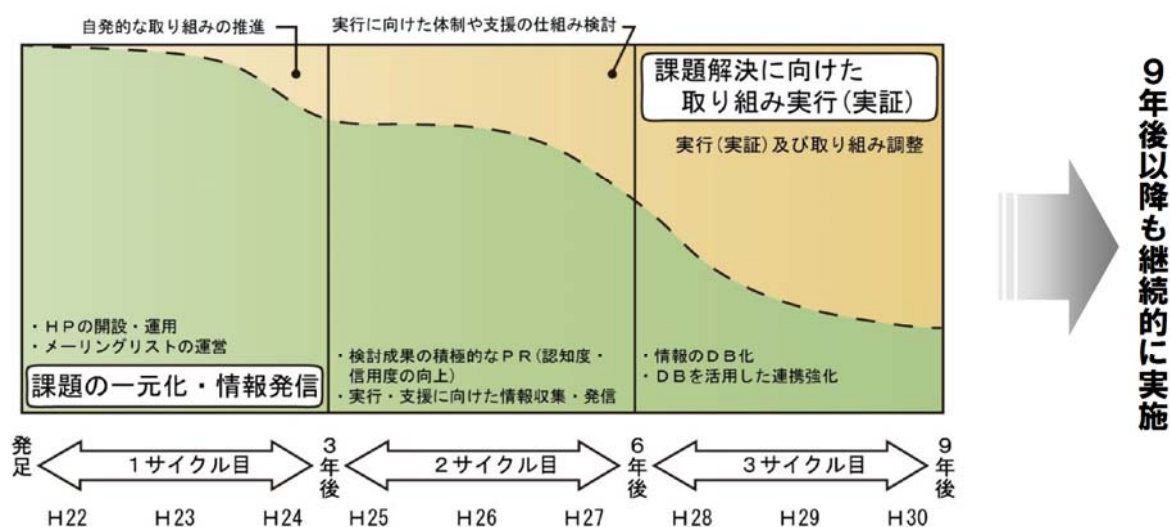
1. 懇談会の目的と運営方針について

1.1 懇談会の目的

- 矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る

1.2 懇談会の運営方針

- 懇談会は、3年に1サイクルで総括を行いながら運営
- 来年度からは、3サイクル目の「課題解決に向けた取り組み実行（実証）」へシフト



2. 部会の今後の3ヶ年の目標（案）

活動にあたっては、「矢作川水系河川整備計画」に基づき、調和のとれた矢作川流域圏の実現に向け、学識者、関係団体、関係行政機関がそれぞれの役割について認識を持ち、互いに連携して諸課題の解決に取り組むこととする。

今年度の活動における課題や意見から、今後3ヶ年の目標（案）を以下とする。

- WGの中で山村再生担い手づくり事例集について、よりPR力のあるものにする
- 山村ミーティングや木づかいガイドライン等とWGの中で山村再生担い手づくり事例集によって築かれた人間関係を連携させて、流域が関わるイベントを実施する
- WGの中で森づくりガイドラインについて、矢作川や水源かん養機能に配慮した森づくりの理念と具体的な方策を発信する
- WGの中で木づかいガイドラインの策定を行い、流域における水平展開を山部会構成メンバーで実行する

3. テーマ別の活動目標（案）

3.1 山村再生担い手づくり事例集

- 《H28》 H25～H27 までの 3 ヶ年の成果をホームページ掲載するとともに、PR 力のある山村再生担い手づくり事例集とする。これまでに、取材で構築された人間関係を活用したイベントの開催を計画する
- 《H29》 イベントの実施(山村ミーティング、木づかいガイドライン等、他のテーマとの連携)
- 《H30》 9 年間の総括(イベントの 10 年目以降の継続の検討)

3.2 山村ミーティング

- 《H28》 新たなイベントの計画、試行
- 《H29》 イベントの実施(山村再生担い手づくり事例集、木づかいガイドライン等、他のテーマとの連携)
- 《H30》 9 年間の総括(イベントの 10 年目以降の継続の検討)

3.3 森づくりガイドライン

- 《H28》 岡崎市、豊田市における森づくりの動きについて、WG として把握し、情報共有と意見交換を行う。
- 《H29》 岡崎市と豊田市で、共通理解となった水源かん養機能や矢作川に配慮した森づくりの理念と具体的な方策をとりまとめる
- 《H30》 9 年間の総括(矢作川流域圏として、統一性のある森づくりガイドラインの発信)

3.4 木づかいガイドライン

- 《H28》 木づかいライブ・スギダラキャラバンの活動を継続するとともに、実績を整理する。
- 《H29》 木づかいを推進した安城市、豊田市、岡崎市、恵那市等の実績をパッケージ化(=矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインの作成)する。
- 《H30》 9 年間の総括(パッケージを流域の市町村に水平展開する)